

2021年度

こども発達学研究科

こども発達学専攻

シラバス

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
こども発達支援総論	加藤 裕明	1
こども発達特論	小椋 佐奈衣	3
教育課程・方法特論	加藤 裕明	5
インクルーシブな教育・保育特論	木谷 岐子	7
教育内容・教材特論	山口 宗兼	9
教育方法実践特論	小田 進一	11
特別支援教育コーディネーター特論	高橋 道也	13
保護者支援特論	植木 克美	15
こども発達支援・臨床相談特論	山本 愛子	18
特別支援教育方法特論	植木 克美	20
こども発達特別演習	小椋 佐奈衣	22
教育課程・方法特別演習	加藤 裕明	24
教育内容・教材特別演習	山口 宗兼	26
教育方法実践特別演習	小田 進一	28
発達障害実践特別演習	後藤 広太郎	30
こども発達支援・臨床相談特別演習	山本 愛子	33
気になる子どもの発達支援特別演習	木谷 岐子	35
発達支援分析評価法実践演習	山本 愛子	37
こども発達学実践演習I	山本 愛子	39
こども発達学実践演習II	小田 進一	42
こども発達学実践演習III	加藤 裕明	44
こども発達学特別研究I	小田 進一	46
こども発達学特別研究II	小田 進一	48
こども発達学特別研究III	小田 進一	50

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210000C1 こども発達支援総論		5200	2	1	前期
教員氏名	加藤 裕明、山口 宗兼、山本 愛子、木谷 岐子、小椋 佐奈衣				
授業の位置づけ	①「こども発達支援総論」(必修) (以下、本授業)は、今日のこどもの発達の実態とニーズの多様化に対応するため、教育学、心理学、特別支援教育学等の成果に学び、研究と実践との往還の中から、より高度な実践力の形成を計るための科目である。 ②本授業は、研究科の教育課程の中核に位置し、障害児教育、教育方法学、幼児教育の各科目の基礎となる科目である。				
授業の概要	①本授業では、幼児教育(保育)や学校教育の現場で生起する、こども発達支援分野の抱える諸問題に関する知識を習得する。 ②諸問題の解決の手がかりとして、カリキュラム編成、教育方法及び教育内容に関わる理論を活用する技能を習得する。 ③子どもの発達に関し、それを促す諸条件について探究する態度を身につける。				
到達目標	①本授業によって、学生はコミュニケーション力の育成という観点から、さまざまな発達課題をもつ子どもたちの問題を指摘し、説明できるようになる。 ②子どもの学びを引き出すため、適切な保育・教育方法に関する理論と実践の知見を活用できるようになる。 ③保育、幼児教育、および学校教育における子どもの発達と、具体的な実践のあり方を考え、討議できるようになる。				
授業の方法	①パワーポイントや印刷配布物を用いて解説する。 ②少人数のゼミ形式であり、対話・討論活動を軸にする。 ③自身の実践や経験をふまえた、課題を提示してもらい、対話・討議を取り入れながら授業をすすめる。				
ICT活用	・Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、反転学習や遠隔授業をも効果的に取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	・授業担当者は、幼稚園や学校、あるいは教育委員会等の現場において実務経験を持っている。この経験にもとづき、実践と研究の往還に寄与する視点を提供していく。				
課題に対するフィードバックの方法	・G-classroom等も活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	・教育とは何かを、その目的論から考える。特に教育基本法第一条にこめられた意義について歴史的、理論的に考察する。(加藤裕明)	資料を熟読し意見をまとめる。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)		
2	・教育課程と「カリキュラム」の本質的な違いをふまえつつ、カリキュラム編成のあり方を考察する。(加藤裕明)	資料を熟読し意見をまとめる。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)		
3	・教育実践は、子どもが自己を実現するための応援であって、徹底して子どもが主役でなければならない。学校や教師の思惑の押し付けではなく、子どもの主体性に基づく教育実践はいかにすれば可能かを議論する。(加藤裕明)	資料を熟読し意見をまとめる。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)		
4	・発達障がいと共に在る方の姿をライフストーリー研究を通して学ぶ。(木谷岐子)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)		
5	・障がい受容について、保護者と本人それぞれの視点を学ぶ。(木谷岐子)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)		
6	・発達障がいと共に在る方への支援について学ぶ。(木谷岐子)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)		
7	・幼保小連携について、幼稚園教育要領・保育所保育指針等の視点から、具体的事例を通して学ぶ。(山口宗兼)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)		
8	・幼保小連携について、アプローチカリキュラムの視点から、具体的事例を通して学ぶ。(山口宗兼)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)		

9	・幼保小連携について、スタートカリキュラムの視点から、具体的事例を通して学ぶ。 (山口宗兼)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
10	・発達支援における「援助者への援助」について学習する。ここでは、特に、対人援助の領域において援助者が被援助者から受ける影響に関して、ボランティア及び福祉専門職の事例を通して学び、援助者への援助のあり方について考える。(山本愛子)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
11	・関係力育成プログラムに基づく子育て支援について学習する。ここでは、本学の子育て教育地域支援センターにおける子育て支援の理論と実際について、映像資料及び文献講読を通して学ぶ。(山本愛子)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
12	・発達支援の領域における母親支援としてのミュージックセラピーについて学習する。ここでは、子育て・発達支援の領域における母親への心理的支援のあり方に関して、音楽療法的視点から考察する。(山本愛子)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
13	・乳児期の保育の再考：幼児期の教育についての現状と課題及び乳幼児期の発達に応じた保育内容について考える。	テーマの自己理解の整理。指定の論文の読み込み。(90分)	検討課題の整理。13～15を通してのレポート作成。(90分)
14	・保育環境の可能性：日常生活の中の関係論及び保育における生活の見直し。	テーマの自己理解の整理。指定の論文の読み込み。(90分)	検討課題の整理。13～15を通してのレポート作成。(90分)
15	・保育の専門性、実践概念の探究：保育者自身の専門職意識、保育及び保育者のアイデンティティについて考える。	テーマの自己理解の整理。指定の論文の読み込み。(90分)	検討課題の整理。13～15を通してのレポート作成。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業に関するリアクションレポートの内容(50%)、及び授業での対話・討論への参加状況(50%)によって評価する。
その他	0	なし

教科書	・各回、それぞれの担当者から提示される。
参考文献	・各回、それぞれの担当者から提示される。
履修条件・留意事項等	・各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210010C1 こども発達特論		5220	2	1	前期
教員氏名	小椋 佐奈衣				
授業の位置づけ	「こども発達特論」は人間の発達の変化とその背景と問題との関連性についてプロセスを考究するための学問であり、こども発達学の基礎となる科目である。				
授業の概要	①乳児期から児童期の発達の変化に基づき、発達を可能にしている諸条件を探究する。 ②こどもの発達の特性を理解し、幼児教育や学校教育の現場が抱える諸問題を考究する。 ③こどもの発達と諸要因の関連を検討し、多角的に人間精神と子どもの発達を広い視点で考察する。				
到達目標	①保育、幼児教育、学校教育、特別支援教育の現場における実践とその課題を捉える。 ②理論と実践の関連性について、学問的に理解を深めて活用するための討議をする。				
授業の方法	教科書、プリントを使用した講義形式ならびにディスカッション形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。授業内の小レポートで、学習内容の確認を行う。				
ICT活用	Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	該当なし。				
課題に対するフィードバックの方法	小レポート、リアクションペーパーに記入された受講生の意見を共有、フィードバックする時間を設ける。課題に対しては、コメントを返します。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	発達の定義と発達の規定因・生涯発達の視点について学びと考察をする。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
2	発達の理論①発達とは何か？脳の機能について仕組みを理解して知識を探究する。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
3	発達の理論②発達とは何か？環境と遺伝の相互作用について考究する	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
4	胎児期・新生児期の特徴と発達について専門用語と感覚器官と感覚機能の知識を探究する。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
5	乳児期の精神と発達について愛着形成に着目して考究する。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
6	乳幼児期の精神と発達について認知発達と言語発達に着目して考究する	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
7	3歳児の精神と発達について知見と集団生活の具体的事例を通して学びと考察をする	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
8	4歳児の精神と発達について知見と仲間関係の具体的事例を通して学びと考察をする。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
9	5歳児の精神と発達について知見と道徳性・協同性の具体的事例を通して学びと考察をする。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
10	児童期(学童期)前期の特徴と行動・発達と教育の関係について考究する。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
11	児童期(学童期)後期の特徴と行動・発達と教育の関係について考究する。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
12	生涯発達の概観について思春期・青年期・成人期・壮年期・老年期を考究する。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
13	親子関係・家族関係とこどもの発達との関連性について考察する。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
14	保育・幼児教育・学校教育の現場における課題を考察する。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		
15	特別支援教育の取り組みや社会的状況を考察する。	なし	配布資料の整理と文献や論文を参照する。		

成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験		実施しない。

定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		授業に関するレスポンスシートや課題の内容（50%）、授業での対話・討論への参加状況（50%）によって評価する。
その他		

教科書	「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房. 「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房.
参考文献	各回資料を配布する。
履修条件・留意事項等	
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210020C1 教育課程・方法特論		5225	2	1	前期
教員氏名	加藤 裕明				
授業の位置づけ	①「教育課程・方法特論」(以下、本授業)は、こどもの学びの姿を見とり、確かな学力を獲得させるための教育方法に関し、理論と実践とを往還させながら探究する力を身につけるための科目である。 ②「教育課程・方法特別演習」、「教育内容・教材特論」、「教育内容・教材特別演習」、「教育方法実践特論」、「教育方法実践特別演習」等と接続し、教育課程論、教育方法論に関するあらたな研究の課題と方法を探究する科目である。				
授業の概要	①本授業では、保育、幼児教育や学校教育における教育課程編成のあり方、及び実践の方法に関する知識を身につける。 ②特に、近年重視される「社会情動的スキル」(非認知スキル)の学びを見とり、探究する技能を修得する。 ③さらに、参加者相互に、幼児教育と学校教育の接続に関する知見を協働的に探究する力を養う。				
到達目標	① 本授業を通して受講者は、教育課程とカリキュラムの違いをふまえ、その実践への応用について説明できるようになる。 ② 「社会情動的スキル」(非認知的スキル)を現実の学習活動にあてはめ、操作する力を身に付ける。 ③ 保育、幼児教育と学校教育との基盤に関して他者対話し、現代的課題への対応について探究する力を身に付ける。				
授業の方法	①パワーポイントや印刷配布物を用いて解説する。 ②少人数のゼミ形式によってすすめる。 ③受講者にレポートを提出してもらい、そのレポートの発表を軸に対話・討議を展開する。				
ICT活用	・Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、反転学習や遠隔授業をも効果的に取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	・公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践経験を有する。また、この間、部活動指導にも従事し、演劇教育を専門的に研究し、博士学位を取得した。以上の経験を活かし、子どもたちの信頼関係づくり、協働的、活動的な学びと表現創造、そして「社会情動的スキル」(非認知スキル)の育み方等について、具体的な子どもの姿を通して、授業の中に織り込んでいく。				
課題に対するフィードバックの方法	・この授業は、受講生が相互にレポートを作成し、その報告を議論の材料として、対話を軸に展開する。したがって授業展開のあり方全体が、常に受講生へのフィードバックによってデザインされる。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	・ガイダンス：大学院における少人数授業及び対話的活動の方法と進め方について説明する。 また、参加者各自の研究の問題意識について発表し、対話する。	シラバスを読み、大学院における各自の研究テーマや問題意識について他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)		
2	・社会情動的スキルと幼児教育の関係について考察する。	・社会情動的スキルとは何か、について調べておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)		
3	・社会情動的スキルに関するフィードバックと対話活動を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)		
4	・幼児教育と学校教育を接続するアプローチカリキュラムをどう編成するかを考える。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)		
5	・アプローチカリキュラムの編成のあり方について、フィードバックと対話活動を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)		
6	・保育と基本的人権との関係について参考文献をもとに考察し、対話する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)		
7	・保育から見えてくる社会のあり方について参考文献をもとに考察し、対話する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)		
8	・「子どもの権利条約」(児童の権利に関する条約)に示された子ども親について、参考文献をもとに対話し、討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)		
9	・保育と「個人の尊厳」との関係について参考文献をもとに考察し、対話する。	・「保育所保育指針」を読む。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)		
10	・保育者の労働環境、条件について、参考文献をもとに考察し、対話する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)		

11	・保育と科学技術の関係について、文献をもとに考察し、対話する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
12	・「保育所保育指針」について、保育現場の実情から考察し、対話する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
13	・地域に根差した保育の実践のあり方について、参考文献をもとに考察し、対話する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
14	・保育と科学技術の関係について、文献をもとに考察し、対話する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
15	・まとめ：これまでの授業を踏まえ、保育、幼児教育のあり方について、教育課程の編成と教育方法の点からこれからの課題を考察する。	・これまでの授業をふりかえり、他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)	・授業をふりかえり、自分の研究の問題意識との関連を考察する。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	・定期試験は行わない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で活用するレポート内容 (40%)、レポートの口頭発表 (40%)、授業における対話、討議への活発な参加 (20%)
その他	0	なし

教科書	・授業内で、適宜テキストや資料を印刷、配布する
参考文献	・川口創+平松知子 (2017) 『保育と憲法』 大月書店 ・近藤幹生 (2018) 『保育の自由』 岩波新書 その他、授業内で適宜紹介する。
履修条件・留意事項等	・各自の研究を構築していくための機会として、授業における口頭発表、対話を積極的に活用してもらいたい。
備考欄	



科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210030C1 インクルーシブな教育・保育特論		5230	2	1	前期
教員氏名	木谷 岐子				
授業の位置づけ	インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。具体的には、保護者支援特論、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の8科目が設定されている。				
授業の概要	「発達面に課題のあるこども」についての知識を通して、子どもたちの持つ特性と相手を取り巻く環境との折り合いの不十分さが、ひずみとして累積的に蓄積されるプロセスについて学習する。その理解の枠組を通して、援助を必要としている子どもたちの抱える心理的な課題を明らかにし、支援のあり方を明らかにしていく。				
到達目標	1. こどもの多様なニーズを捉える視点をもつことができる。 2. 保育、幼児教育、および学校教育における具体的な実践と関わらせながらインクルーシブな教育・保育への取り組みを実現していく考え方について理解できる。				
授業の方法	授業は演習方式で実施し、受講者全員で授業を作り上げる参加型の方式を採用する。そこでは、各自のこれまでの経験を全体で共有できるような場を設定する。				
ICT活用	Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	臨床心理士/公認心理師として、発達相談及び、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験を活かし、発達障がいに関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する。				
課題に対するフィードバックの方法	授業におけるディスカッション、及び複数回のレポートへのコメントによってフィードバックする。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	●オリエンテーション 講義担当者の臨床実践や、研究の経過を紹介し、講義の内容や目的、進め方についての説明を行う。	この授業を受講するにあたっての心づもりを、自己紹介を通して発表する準備をする。(90分)	この授業を受講するにあたっての発表と他の受講生の意見のなかで、重要と思われる事柄を取り上げ、まとめておく。(90分)		
2	●発達障がいの概要 発達障がいに対してもっているイメージや、各自のこれまでの経験を確認する。その上で、発達障がいについての基礎的知識を得て、その輪郭を捉える。	発達障がいに対する自分の理解をまとめる(90分)	他の受講生の発言や、授業で取り扱われた内容について、重要と思われる事柄を取り上げ、まとめておく。(90分)		
3	●ASDについて① ASDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら理解を深める。	ASDの概念について調べる。(90分)	配布されたプリントを参考にし、ASDの特徴についてまとめておく。(90分)		
4	●ASDについて② ASD当事者が書いた文章や、映像を通して、ASD当事者の内面的な体験世界にふれる。	ASDの特徴がある人が直面する課題について調べる。(90分)	事例の課題と支援の在り方を整理してみる。(90分)		
5	●ADHDについて① ADHDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら理解を深める。	ADHDの概念について調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にし、ADHDの特徴についてまとめておく。(90分)		
6	●ADHDについて② ADHDの特徴がある人の事例を紹介しながら、どのような課題に直面しているのか理解を深める。	ADHDの特徴がある人が直面する課題について調べる。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)		
7	●LDIについて① LDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら、理解を深める。	LDの特徴について調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にし、LDの特徴についてまとめておく。(90分)		
8	●LDIについて② LDの特徴がある人の事例を紹介しながら、どのような課題に直面しているのか理解を深める。	LD概念の変遷について調べる。(90分)	LDがある人がどのような課題をもつのかについてまとめる。(90分)		
9	●こどもがもつ多様なニーズ① 発達障がいの視点に限らず、様々なニーズを持つこどもがいることを知り、こどもの思いに寄り添うこととは、どのようなことなのかを学ぶ。	多様化するこどものニーズについて調べる。(90分)	映像から学んだことについてまとめる。(90分)		

10	●こどもがもつ多様なニーズ② 発達障がい以外の視点に限らず、様々なニーズを持つこどもがいることを学び、こどもを理解するための視野を広げる。	多様化するこどものニーズについて調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、性別違和についてまとめる。(90分)
11	●当事者の思い 発達障がいと共にある、当事者の思いや願い、考えについて学ぶ。	発達障がい当事者が直面する課題について調べる。(90分)	発達障がい当事者が直面する課題についてまとめる。(90分)
12	●特性シートを通して考える① 発達障がいの特性をまとめるのに役立つシートを紹介する。項目の意味や記入方法について、記入例を通して理解を深める。	事前に配付する資料に目を通しておく。(90分)	シートの項目の意味や記入方法について、各自整理する。(90分)
13	●特性シートを通して考える② 自分自身のコミュニケーションや認知の特性、感覚や運動の特性などを素材にして、特性シートの内容を具体的に理解する。グループ内で、互いに知識や理解を補い合いながら演習を行う。	自分自身の得意や苦手について書き出す。(90分)	自分の特性シートの内容を見直して、気付いたことを書き出す。(90分)
14	●特性シートを通して考える③ 選定した事例について、特性シートに書き起こしてまとめる。互いに知識や理解を補い合いながら演習を行う。	シートの内容でわからないところがないか点検する。(90分)	選定した事例の特性をまとめたシートを見直して、気付いたことなどを整理する。(90分)
15	●まとめ 選定した事例について特性シートをまとめ、新たに気付いたことや、今後のよりよい支援に活かせることをまとめて、全体で交流する。(90分)	演習を振り返り、気付いたことをまとめる。(90分)	この講義全体を通じた感想及び意見についてまとめる。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	70	レポートの内容によって評価する。
その他	30	ディスカッションへの参加の積極性を評価の対象とする。

教科書	必要な資料はその都度配付する。
参考文献	「気づき」と「できる」から始める フレームワークを活用した自閉症支援 水野敦之 エンパワメント研究所
履修条件・留意事項等	この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210040C1 教育内容・教材特論		5250	2	1	後期
教員氏名	山口 宗兼				
授業の位置づけ	遊びを中心とする幼児期の学びと教科学習に重きを置く学童期の学びに一貫性を確保し、幼小の連続性と連携を構築することは、今日の重要な教育課題となっている。この課題に応えるために、本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別演習、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。				
授業の概要	教育内容・教材論の今日における深化は、先行研究によれば、教育内容と教材の区別論に始まるとされる。本講義では、この論の批判的吟味を土台として、とくに幼児段階、小学校低学年段階における教育内容・教材のあり方を研究する。				
到達目標	1. 教育内容教材論の基本的な理解を形成する。2. 幼児段階・小学校低学年段階の教育内容に関して蓄積されてきた重要教材の意義を把握する。3. 今後、受講生自身の経験を通じた課題意識をベースにして、教育内容教材について意欲的に改善・開発する基礎的力量と態度を養う。				
授業の方法	配布印刷物（課題など）を用いて演習形式ですすめる。 次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。				
ICT活用	特になし				
実務経験のある教員の教育内容	幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。				
課題に対するフィードバックの方法	次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	わが国における教育内容・教材論の研究において、柴田義松が提起した教育内容と教材の区別論の意義を批判的に検討し、教育内容・教材の開発にむけて、いかなるアプローチがあるかについて、受講生全員で討論を通して研究を深める。	シラバスを十分に確認しておくこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)		
2	小学校学習指導要領および幼稚園教育要領（保育所保育指針）の歴史的変遷を概括し、わが国の学校における教育内容、教科や領域の構成の特徴と問題点を解明する。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)		
3	特に、ブルーナーが提唱したとして知られている教育内容現代化は、功罪半ばする評価を受けているが、教育内容教材論においては画期的なものであり、彼の開発したいくつかの教材の意義も含めて、その積極面と消極面について受講生間の討論を通して研究する。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)		
4	これとは対照的に、日本における数学教育の現代化を打ち出していた遠山啓は、ブルーナーのそれを超現代化として批判しつつ、現代数学と認知発達心理学に学び、視覚的、操作的な「結集」可能性をもつタイトルを考案した。ここに見られる「教（教育内容）」-「タイトル（教材）」の関係は、教育内容教材のすぐれた典型であり、この開発プロセスと理論を深く探求し、今後の指針とする。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)		
5	前講の議論をふまえ、とくに、幼児教育における各領域と生活科をふくむ小学校低学年教科の関連を検討し、次回以降の研究の端緒とする。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)		
6	第2講、第5講の議論をふまえ、小学校の各教科の教育上の連関について検討する。例として、算数と理科に関連する「量」を取り上げ、教育内容、教材論においては、既成の枠にとらわれない発想が求められることを理解し、課題意識を高める。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)		
7	ここから、個別教科領域の研究に入る。国語においては、言語と言語活動をいかに関連づけるかが基本的な課題となっているが、解決されているとは言い難い。これについて、すぐれた事例を紹介しながら適切な教材を探る作業を課す。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)		
8	前講に引き続き、院生が探索した教材について検討し、その適切性について受講生全員による討議を通して、今後の課題とする。なお、幼児期における規範性の高い言語教材である絵本と言語の発達の関係についても、同様の視点から課題を把握する。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)		

9	数量の認識については、既に例示したタイルにくわえ、長さ、液量を素材として、量の計測にいたる4段階指導などの成果を紹介しつつ、いくつかの教科書・教材について、批判的に吟味し、対案を立てる作業を課す。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。（90分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（90分）
10	前講に引き続き形で、院生の対案を院生同士で吟味し、より適切なものとなりうるよう支援し、完成させる。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。（90分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（90分）
11	幼小の連続を考案する素材として、数量の認識形成の問題をとりあげる。ピアジェの研究を土台とし、これに現代数学の視点を重ねて遠山啓が提案した「未測量」「原数学」などの考えに学び、提示する教材と活動の組織のあり方について検討する。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。（90分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（90分）
12	前講に引き続き、家庭生活の中で獲得する数唱についてとりあげ、これらが基数及び序数の認識にいかにつながる（つなげる）のか検討する。あわせて、日本の数唱に特有の和語と漢語の混用、助数詞の汎用など、数認識に関わる問題について研究する。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。（90分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（90分）
13	領域「環境」「人間関係」と低学年理科・社会を包含する面をもつ生活科との関連について、あらためて具体的に検討する。その際、教科の目標と論理相反しかねない生活科教科書を取り上げ、記述内容を素材として、この領域、教科における教育内容・教材論への示唆をさぐる。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。（90分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（90分）
14	道徳が教科として、新たに設定される動きをふまえ、道徳的発達に関する理論を学び、とくに規範（ルール）と社会関係に焦点をあてて、どのような教材と活動の組織が適切かについて、受講生自身の経験を通じた課題意識を通しながら検討を試みる。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。（90分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（90分）
15	これまでの研究をふまえ、自ら検討・開発しようとした試みを土台に、教育内容・教材論、とくに教材が満たすべき要件についての議論を深める。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。（90分）	レポート作成に向けて、すべての返却された課題や資料などに必ず目を通し、復習を行うこと。（90分）

成績評価の方法		
区分	割合（％）	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	課題レポートの提出
その他	0	なし

教科書	講義資料はその都度、レジュメを事前に配布する。
参考文献	柴田義松『教育課程論』（第二版）学文社
履修条件・留意事項等	教育内容・教材特別演習も履修すること。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210050C1 教育方法実践特論		5255	2	1	後期
教員氏名	小田 進一				
授業の位置づけ	本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別研究、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。				
授業の概要	教育実践は教育目標を子ども・家庭・地域社会の実態を考慮して具体化した教育計画のもとで、しかもそのときどきに生起する諸事態に臨機応変に対応しつつ行われる。今日の実践論の土台の一つとなったのは技術的実践と反省的実践の区分と反省的実践を推奨する先行研究であった。このような先行研究の批判的な検証を機軸として本講義を展開する。内容上、教育とケアの統合、方法原理としての「遊び」、今日の課題である幼小の連携、家庭・地域社会との連携等についての先行事例、先行研究を吟味し、あわせて受講生自身の経験を通じた課題についても討論を通して明らかにし、主体的学習を通して教育実践に向けての理論的基礎を構築する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育実践の意義と方法を理解する。</li> <li>2. 幼児教育実践の全体像を理解し、個々の実践を位置づけることができる。</li> <li>3. 幼児教育実践にむけて、理論に裏付けられた確信をもとに、意欲的に臨むことができる。</li> </ol>				
授業の方法	テーマに基づいて各自の取りまとめと討論を中心に進める。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	本学付属幼稚園の園長としての豊かな実務経験を活かし、保育・幼児教育現場における実践的な思考を伝えていく。				
課題に対するフィードバックの方法	課題意識、新たな課題はその都度、授業中に取り上げる。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	幼児期の教育に係る実践と制度に係る課題等、授業の展開を紹介し、授業の目標、評価、進め方、受講に係る留意事項を説明する。特に、本講義では、大学院生それぞれが経験を通じた課題を積極的に取り上げ、討論を通して課題解決の手がかりを探る学習の場を提供することを説明する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。		
2	教育実践が、単に「環境の整備と適応」にとどまるものではなく、綿密な計画にもとづく実践であること、そのことを通じて子ども一人ひとりの発達の実現を目指すものであることを、先行諸説の検討を踏まえ明らかにする。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。		
3	教育実践が計画的な実践でありながら、その時々を生起する事態にいかに対応すべきかについて、技術的実践、反省的実践などの用語で語られる先行研究の批判的検討をもとに研究する。実践が、臨機応変な柔軟なものであるべきことを、これまでの教育方法理論の蓄積をふまえて考察する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。		
4	フレーベル、モンテッソーリなどの先達の理論と実践について今日の実践に生かすべき基本原理を、これらを評価する諸説に学びながら確認する。実践における計画の基礎となる学習指導要領、幼稚園教育要領(保育所保育指針)の今日に至るまでの変遷を概観し、これらに反映している時代の要請と理論的背景を考察する。その際デュイ・ブルーナー、ヴィゴツキーらの諸説にも触れる。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。		
5	さらに、幼児教育実践の基本課題である「教育とケア」の統合について、幼保一元化論を含めた諸説に学び、認定こども園などの可能性を含め、実践の指針を明確にする。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。		
6	幼小教育課程の一貫性が求められる今日において、教育方法、教育実践の上においても、幼小の連続性が問われている。この課題についても、先行する諸説、諸例に学びつつ研究を深める。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。		
7	幼児教育・保育施設と家庭の緊密な連携が求められている。これがいかにあるべきかについて、事例(例えば北海道文教大学附属幼稚園の実践)を研究し、課題を探る。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。		
8	幼児教育・保育施設と地域社会の連携が問われている。これについても、事例(例えば、恵庭市のこども課の実践事例など)を研究し、課題を探る。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。		



9	遊びを中心とする幼児教育実践においては、基本的には計画的な環境構成が重要である。この環境構成の様々な事例とそのもとの支援のあり方について研究する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。
10	幼児教育方法における「遊び」について、その特質にもとづく分類とそれぞれの機能について、先行研究をふまえ研究を深める。 (例えば、身体運動遊び、創造的工作遊び、役割遊び(ごっこ遊び)、知的遊び、劇遊びなど)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。
11	幼児教育における伝統的な「仕事」(いわゆる「真剣な遊び」)の今日的意義を再検討し、先行研究に学び、教育実践に生かす方法を研究する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。
12	役割遊びや知的遊び、劇遊びなどを行事等に結びつけるなどの実践のあり方について、受講生全員で討議を重ね研究を深める。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。
13	遊びによらない教育実践も必要であり、これについても、とりたてて指導や行事指導のあり方を中心に、受講生全員で情報を交換し、研究を深める。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。
14	札幌市の全区がそれぞれに行っている幼保小連携協議会の各区の実践の事例を受講生が、各自持ち寄り、それらの実践事例を通して、新しい実践方法の研究に取り組む。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。
15	まとめてとして、「幼児教育」「保育」実践が家庭教育を含む幼児期の教育の実践に広がりを持つために視点の確認と視野をさらに広げる必要性について討議し、考察する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	提出された報告書(50%)、ゼミ活動中の意欲・態度(30%)、レスポンスシート(20%)
その他	0	なし

教科書	なし
参考文献	なし
履修条件・留意事項等	常に課題意識をもって授業に取り組む。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210060C1 特別支援教育コーディネーター特論		5260	2	1	後期
教員氏名	高橋 道也				
授業の位置づけ	インクルーシブ教育システムに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズをもつ子どもへの対応が求められており、この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。保護者支援特論、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の8科目が設定され、本講義特別支援教育コーディネーター特論があり、中堅の指導者にとって重要な内容になっている。				
授業の概要	教育・保育職における特別支援教育は、子どもの権利及び学習・発達を保障していく観点から不可欠なものになっている。本講義では、従来の「特殊教育」から「特別支援教育」への広がりのなかで、特別支援教育の一人ひとりの発達に即した支援のあり方が、全ての教育の基底として重要なことを学習し、コーディネーターとしての力量形成の手がかりを研究する。 そのために小中学校を事例対象にし、教育相談や個別の配慮を必要とする事例への対処などが実際にはどのように行われているのかを知り、特別支援教育コーディネーターの学校現場での役割の実際を学ぶ。				
到達目標	1. 特別支援教育コーディネーターの質の高い専門性について、理解することができる。 2. 特別支援教育コーディネーターの役割について、理解することができる。 3. 様々な実践事例を通して、特別支援教育コーディネーターとしての力量を高めることができる。				
授業の方法	授業は演習方式で実施し、受講者全員で授業を作り上げる参加型の方式を採用する。ここでは、各自のこれまでの経験を全体で共有できるような場を設定する。また、必要に応じて、講義担当者の研究論文を素材にして理解を深めることができるような機会を提供する。				
ICT活用	スカイプなどの双方向通信ツールを使って、就労支援事業所などと交流する。				
実務経験のある教員の教育内容	小学校特別支援学級の担任として36年間勤務した。特別支援教育コーディネーターを10年間兼任した。この経験を生かして、特別支援教育に関する知識だけではなく、エピソードを加味しながら「現場感」が伝わる講義を行う。特に、インクルーシブ教育に関して、交流学习に長年取り組んだ経験をエピソードとして特別支援教育の実際として伝えることができ、具体的な課題を取り上げて講義・演習を行うことができる。				
課題に対するフィードバックの方法	授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	受講生全員の討論を通して、「特殊教育」から「特別支援教育」への広がりの中で、全ての教育の基底になる一人一人の発達に即した支援のあり方についての現状の取り組みについて情報交換をし、コーディネーターに求められる役割について各自の意見を述べ合い、特別支援教育コーディネーターの役割についての輪郭を把握する。	次週の講義に関連する資料を事前に配布するので、受講する学生は資料の読み込みをしようとして、授業に参加すること。(90分)	授業終了時、次週までに考えてほしい課題も合わせて提示するので、課題についての発表資料をA4一枚に整理すること。(90分)		
2	特別支援教育コーディネーターに求められる資質・能力や役割について、各自、重要と思われる資料を持ち寄り、それらの資料をベースにして、全体で討論をし、その専門性について共通理解を図る。	次週の講義に関連する資料を事前に配布するので、受講する学生は資料の読み込みをしようとして、授業に参加すること。(90分)	授業終了時、次週までに考えてほしい課題も合わせて提示するので、課題についての発表資料をA4一枚に整理すること。(90分)		
3	幼稚園・保育所・小学校における特別支援教育コーディネーターの実態や専門性について、実際に、コーディネーターの経験を持つ本講義の担当者から、校内体制、関係機関との連絡調整のあり方についての話題を素材にして、特別支援教育コーディネーターの活動の実際について理解を深める。	次週の講義に関連する資料を事前に配布するので、受講する学生は資料の読み込みをしようとして、授業に参加すること。(90分)	授業終了時、次週までに考えてほしい課題も合わせて提示するので、課題についての発表資料をA4一枚に整理すること。(90分)		
4	幼稚園・保育所・学校における特別支援教育コーディネーターの実態や専門性について、指定文献「保護者対応における熟年期教師のふりかえり。日本教育工学会第29回大会。植木克美・高橋道也他」を読み、それを素材にして、保護者に対する相談のあり方について受講者間で情報交換をし、保護者支援の重要性について研究を深める。	次週の講義に関連する資料を事前に配布するので、受講する学生は資料の読み込みをしようとして、授業に参加すること。(90分)	授業終了時、次週までに考えてほしい課題も合わせて提示するので、課題についての発表資料をA4一枚に整理すること。(90分)		
5	実践事例を通して、特別支援学校における特別支援教育コーディネーターの実態や専門性についての理解を深める。：校内体制、医療・福祉等の関係機関との連絡調整、保護者に対する相談のあり方について、講義担当者の担当した事例を紹介し、それらを素材にして受講生全員で討論を展開する。	次週の講義に関連する資料を事前に配布するので、受講する学生は資料の読み込みをしようとして、授業に参加すること。(90分)	授業終了時、次週までに考えてほしい課題も合わせて提示するので、課題についての発表資料をA4一枚に整理すること。(90分)		
6	実践事例を通して、特別支援教育コーディネーターは、学級担任、保護者、小・中学校等の関連職員に対して、個々の事例に応じた適切な専門的な助言を求められていることを学習する。：ここでは講義担当者の経験した事例を通して、受講生全員で討論を通して、学級担任、保護者、小・中学校等の関連職員への情報の提供の必要性とその在り方について研究する。	次週の講義に関連する資料を事前に配布するので、受講する学生は資料の読み込みをしようとして、授業に参加すること。(90分)	授業終了時、次週までに考えてほしい課題も合わせて提示するので、課題についての発表資料をA4一枚に整理すること。(90分)		

7	特別支援教育コーディネーターが連絡調整を進めるためには、学級担任、保護者、医療や福祉等の関係機関などに対する学校の相談窓口として、それらの機関との関係づくりを行う役割が課されていることを学習する。ここでは講義担当者が勤務校において毛兼した実際の事例を紹介し、討論を通して「学校の草案窓口」としての特別支援教育コーディネーターの役割の重要性について認識を深める。	次週の講義に関連する資料を事前に配布するので、受講する学生は資料の読み込みをしたうえで、授業に参加すること。(90分)	授業終了時、次週までに考えてほしい課題も合わせて提示するので、課題についての発表資料をA4一枚に整理すること。(90分)
8	特別支援教育コーディネーターは、校内委員会における推進役として、ケース会議の開催、個別の教育支援計画の作成に向けての支援、個別の指導計画の作成への参画、校内研修の企画と実施などを推し進める役割が求められていることを学習する。講義担当者の実践事例を受講生全員で討論をし、よりよい特別支援教育コーディネーターのあり方を追求する。	次週の講義に関連する資料を事前に配布するので、受講する学生は資料の読み込みをしたうえで、授業に参加すること。(90分)	授業終了時、次週までに考えてほしい課題も合わせて提示するので、課題についての発表資料をA4一枚に整理すること。(90分)
9	特別支援教育コーディネーターは、教育資源を活用し、子ども一人一人の教育的ニーズに応え、インクルーシブな教育の構築を推進させる役割が求められていることを講義担当者の経験した事例を中心に、受講生同士が情報を提供し合い、「インクルーシブな教育に対する理解の大切さ」についての認識を深める。	次週の講義に関連する資料を事前に配布するので、受講する学生は資料の読み込みをしたうえで、授業に参加すること。(90分)	授業終了時、次週までに考えてほしい課題も合わせて提示するので、課題についての発表資料をA4一枚に整理すること。(90分)
10	特別支援教育コーディネーターは専門職ではなく公務分掌の一つであることを理解し、実際の動きや役割を映画の視聴で理解する。	自身の現場で活動しているコーディネーターについて自分なりに考察しておく(90分)	コーディネーターについて考察したことをまとめておく(90分)
11	生きにくさや生活していくための困難さに対する支援の在り方の例として、映画の視聴を行い人のかかわりの重要性と困難さを理解する。(前編)	文部科学省の特別支援教育前文を読み込んでおく(90分)	映画についての感想をシーンごとにまとめておく(90分)
12	生きにくさや生活していくための困難さに対する支援の在り方の例として、映画の視聴を行い人のかかわりの重要性と困難さを理解する。(後編)	前編を振り返り、疑問点や自分なりの考えをまとめておく(90分)	生きにくさについて自分なりの考えをまとめておく(90分)
13	共生社会という大きな目標を実現する手立てとしての特別支援教育であることを理解する。映画の視聴を通して、共生社会について理解し考察することができる。(前編)	文部科学省の「共生社会実現のために」を読んで自分なりの考えをまとめておく(90分)	映画の感想をシーンごとにまとめておく(90分)
14	共生社会という大きな目標を実現する手立てとしての特別支援教育であることを理解する。映画の視聴を通して、共生社会について理解し考察することができる。(後編)	映画の感想から疑問点をまとめて質問の準備をする(90分)	映画の感想をシーンごとにまとめ、自分なりの考えとしてまとめ最終課題に備える(90分)
15	最終課題を提示するので、課題についての疑問点を質問したり、自分の理解を確認する。特別支援教育についての深い考察が求められる。	講義の内容を振り返り、自分なりの考えや疑問点をまとめておく(90分)	最終課題に取り組む(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の授業における発表資料及び指定文献をベースにしたレポートを総合的に見て、評価する。
その他	0	なし

教科書	なし
参考文献	なし
履修条件・留意事項等	各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。
備考欄	



科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210070C1 保護者支援特論		5265	2	1	後期
教員氏名	植木 克美				
授業の位置づけ	インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。具体的には、保護者支援特論、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の8科目が設定されている。				
授業の概要	保護者との関係づくりによる個別支援、困難かつ複雑な課題に対する多職種（機関）連携、など、様々な子どもに対する家庭支援について教育者・保育者が担いする役割、現代的課題について教育・保育の専門性を高める視点から学ぶ。特に、発達面に課題がある子どもの保護者が抱える課題について、学校・保育現場はどのように関わってきたか、先達の知見を概観しながら、保護者支援のあり方について理解を深める。				
到達目標	1. 学校・保育現場の保護者支援における実践事例について理解を深め、それに対する自分の考えを表明できる。 2. 学校・保育現場の保護者支援における学校教師・保育士の専門性について、先達の実践事例から学び、理論と結びつけながら論議することができる。 3. 学校教師・保育士の教職生活全般通じた学校内・園内における役割の変化、専門性の深まりについて理解し、それに応じた保護者支援を構想できる。				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をとおりした 課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開する。そのために、以下の方法をとる。 パワーポイントと配布印刷物を活用しながら講義形式を進めた後、ディスカッションを毎回実施する。				
ICT活用	授業内容と関連する保護者支援に関するHPの情報を提供し、自主学習を促す。				
実務経験のある教員の教育内容	幼児のこたばの教室指導員として幼児の教育相談を担当した実務経験、そして精神発育相談員として、1歳半健診、3歳健診において、発達面の遅れの疑いのある幼児と保護者を対象に、心理相談を行った実務経験、さらに障害児保育事業における巡回指導専門員として保育所に在園している障害をもつ幼児の保護者および保育園の職員を対象に相談助言の実務経験等活かして保護者支援について授業を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	学校・保育現場における保護者支援の現状と背景：保護者支援の困難性、特に学校教師の抱える困難性を理解し、その背景にある保護者の変化、保護者と学校・園の関係性の変化等の背景にある子育てを巡る現代的課題について検討する。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
2	学校・保育現場の保護者支援における専門性(1)：学校教師、保育士の行う保護者支援の専門性について、コンプライアンス、インフォームド・コンセント等の概念を踏まえながら、「子どもの最善の利益という」観点から検討していく。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
3	学校・保育現場の保護者支援における専門性(2)：学校教師、保育士の行う保護者支援の専門性について、保護者を子どもの発達援助を共に担うパートナーとして尊重し、合意形成を図っていくための理論的背景を踏まえながら、理解を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
4	保育場面における保護者支援の実際と課題(1)～「気になる子ども」の保護者支援：保育場面における、「気になる子ども」の保護者との関係の中で現れる保育士の困難性について、学術論文を購読し論考を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
5	保育場面における保護者支援の実際と課題(2)～発達面に課題のある子どもの保護者支援①：保育場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、精神疾患が疑われる保護者との関係の中で現れる保育士の困難性とその専門性の深まりについて、保育士に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
6	保育場面における保護者支援の実際と課題(2)～発達面に課題のある子どもの保護者支援②：保育場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、かかわりが難しい保護者との関係の中で現れる保育士の困難性とその専門性の深まりについて、保育士に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		

7	学校場面における保護者支援の実際と課題(1)～若手教師の保護者支援：学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる若手学校教師の困難性とその専門性の深まりについて、学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
8	学校場面における保護者支援の実際と課題(2)～中堅教師の保護者支援：学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる中堅の学校教師の困難性とその専門性の深まりについて、学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
9	学校場面における保護者支援の実際と課題(3)～熟年教師の保護者支援①：学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる熟年の学校教師(特別支援学級担任)の困難性とその専門性の深まりについて、学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
10	学校場面における保護者支援の実際と課題(3)～熟年教師の保護者支援②：学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる熟年の学校教師(通常学級担任、管理職)の困難性とその専門性の深まりについて、学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
11	学校場面における保護者支援の実際と課題(4)～若手教師の保護者支援を同僚として支える：学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者支援において、困難を呈する若手教師を同僚教師として支えるという実践事例について、熟年の学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
12	学校場面における保護者支援の実際と課題(5)～養護教諭による保健室登校児童の保護者支援：学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、保健室登校をする児童の保護者の支援を行う養護教諭の役割を学級担任、管理職等の学校内の連携・協働の観点から、養護教諭に対する聞き取り調査の結果を踏まえて、検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
13	学校場面における保護者支援の実際と課題(6)～特別支援教育コーディネーターによる保護者支援：学校場面における、保護者の相談窓口としての役割を担う特別支援教育コーディネーターが行う、学校内外の他職種、他機関連携による、発達面に課題のある子どもの保護者支援について、実践事例から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
14	学校場面における保護者支援の実際と課題(7)～特別支援学級担任の保護者支援：学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者支援において、特別支援学級担任が放課後等デイサービスの職員と連携して行う保護者支援について、実践事例から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
15	授業全体のふりかえり：これまでの授業内容を踏まえ、教育・保育の質を高める観点から保護者支援のあり方についてディスカッションを行う。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	最後に授業内容をふりかえるレポートの提出を受講生に求める。
その他	50	各回におけるディスカッションへの参加度、発言内容(内容の具体性、妥当性、論理性)を評価対象とする。

教科書	小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)合わせて、講義担当者作成のペーパー資料を配布する。
-----	--

参考文献	シリーズ臨床発達心理学・理論と実践③「保育のなかでの臨床発達支援」 秦野悦子・山崎晃編著 ミネルヴァ書房 2011年 教育現場の「コンピテンシー評価」、「見えない能力」の評価を考える 渡部信一編著 ナカニシヤ出版 2017年
履修条件・留意事項等	各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210080C1 こども発達支援・臨床相談特論		5270	2	1	後期
教員氏名	山本 愛子				
授業の位置づけ	インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となっています。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置します。具体的には、保護者支援特論、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の8科目が設定されています。				
授業の概要	乳幼児期・児童期の子どもの発達支援の手掛かりとしての心理臨床について学習します。ここでは、特に、発達面に課題のある子どもたちのコミュニケーション力を育成するために本学で開発された「関係力育成プログラム」を中心に、遊戯療法及びカウンセリングの理論と実際を重点的に学ぶことを通して、子どもの発達を支えるための相談・支援のあり方について研究します。				
到達目標	乳幼児期・児童期の子どもたちへの支援・相談活動について、発達臨床心理学的な視点から学びを深め、それに基づいて、発達支援における課題解決・発展のための手立てを見出すことができるようになることを目標とします。				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験を通じた課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開します。				
ICT活用	この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）による子どもの行動分析を行います。ここでは、特に集団遊戯療法場面をクリッカーを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の理論と実際に関する理解を深めます。				
実務経験のある教員の教育内容	授業担当者は、公認心理師・臨床心理士・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。				
課題に対するフィードバックの方法	クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。また、授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていきます。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーションおよび講義担当者の発達支援・心理臨床に関する学習の軌跡と臨床実践を紹介します。ここでは、講義の内容や目的、進め方、受講にあたっての留意事項等についての説明を行います。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)		
2	発達支援・相談における対象者の特性（抱えている課題・関連する要因等）について、受講生それぞれが描くイメージ・意見を交換し、対象の輪郭を明らかにします。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)		
3	子どもの発達とカウンセリングに関わる理論（1）発達支援において、子どもの特性や家庭背景、心理的な課題・状況に関わるカウンセリングの基礎となる理論について学びます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)		
4	子どもの発達とカウンセリングに関わる理論（2）カウンセリングに関わる理論を学び、子どもの特性や心理的な課題・状況に対する臨床心理学的なアプローチの技法について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)		
5	発達支援と心理アセスメント（1）子どものカウンセリングにおける心理アセスメントの意義とその方法について学びます。ここでは、特に、行動観察、生活記録の方法について学び、子どもの特性を捉えた支援のあり方について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)		
6	発達支援と心理アセスメント（2）発達支援における心理アセスメントの意義と方法について学びます。ここでは、投影法としての描画テスト、ロールシャッハテスト、文章完成法テストの位置づけについて学習します。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)		
7	発達支援における遊戯療法の理論と実際（1）心理療法における遊戯療法の位置づけと意味について理解を深めます。ここでは、これまでに学んできたカウンセリングに関わる理論と遊戯療法との関係性について学ぶことを通して、発達支援における遊戯療法の意味について考えていきます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)		

8	発達支援における遊戯療法の理論と実際(2) 発達支援における「関係力育成プログラム」に関して映像資料を視聴しセラピストの構成と役割を中心に学びます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
9	発達支援における遊戯療法の理論と実際(3) 発達支援における行動観察について学びます。ここでは、関係力育成プログラムによる集団遊戯療法場面に基いて、子どもの行動観察の理論と実際について理解を深めます。また、クリッカーを活用した実際の分析体験を通して、実践的な学びを深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
10	遊戯療法と音楽療法のかかわりを通して見る生涯発達支援(1) : 生涯発達支援における臨床の場を構築するための音楽療法について学習を深めます。ここでは、遊戯療法の世界と音楽療法の関係性について学びます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
11	遊戯療法と音楽療法のかかわりを通して見る生涯発達支援(2) : 関係力の育成に関わる音楽療法について学習を深めます。また、音楽療法の実践に関する映像資料の視聴を通して、生涯発達支援における音楽療法の意義について学びを深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
12	子どもの家族関係に関する支援の理論と実際(1) : ここでは、子どもの家族関係に視点をあて、家族療法に関する文献の講読を通して、家族療法の理論の基本的な考え方について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
13	子どもの家族関係に関する支援の理論と実際(2) : 家族療法における臨床心理学に基づいたアセスメントの体験・分析を通して、この療法の有用性について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
14	実践事例を通じた子どもの発達支援・臨床相談の理解 : ここでは、これまでに講義を通して学んできたことを総合して、発達支援に関わる相談事例を想定し、対象の見立てから支援の内容まで、受講生自身が検討していきます。設定された子どもの相談事例について検討することを通して、課題解決・発展のための手立てを分析していきます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
15	講義の振り返りと学習の成果の確認 : ここでは、この講義で学んだことについて、全体のまとめを行います。	これまでの講義の振り返り、提示したテーマに基づいてレポートを作成する。(90分)	講義全体を振り返り、今後さらに学びを深めたいことについて整理すること。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業場面への参加態度、グループでの活動状況、課題提出により評価します。また、行動観察・分析に関するレポート課題の提出によって評価します。
その他	0	特にありません。

教科書	教科書の指定は行いません。必要な資料はその都度配布します。
参考文献	育児のなかでの臨床発達支援 藤崎真知代・大日向雅美編著 ミネルヴァ書房
履修条件・留意事項等	グループによる体験学習、テーマに関する分析・討論の取組が含まれます。そのため、積極的な参加態度が求められるので留意してください。
備考欄	



科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210090C1 特別支援教育方法特論		6285	2	2	後期
教員氏名	植木 克美				
授業の位置づけ	インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目群を配置している。特別支援教育方法特論はこれらの講義の中核を占める科目として位置づけられている。なお、これらの科目群は、心理臨床の分野を目指す院生の学習を下支えする科目群として重視されている。				
授業の概要	特別支援教育の全体像を明らかにするために、「障害とはなにか」という問いを通して、①子どもたちのもつ行動の特徴（発達要求の弱さ：X）、②子どもを取り巻く環境の側の応答の不十分さ（Y）、③子どもの中に累積される歪み（Z）、のそれぞれの問題を発達論的かつ関係論的に捉えていく中で、障害という問題を構成している諸要因について理解を深める。それらの基礎的理解に立って、このXの要因とYの要因とZの要因が掛け算的に組み合せて、「障害という問題」を構成していることを学習する。その学習の中で、特別支援教育の基本的な枠組みについて理解を深める。				
到達目標	① 障害という問題を構成している要因のそれぞれについての学習を通して、障害のある子どもたち抱える問題の全体像を説明できる。 ② 特殊教育からの移行の経過を踏まえて特別支援教育を説明できる。 ③ 特別支援教育における環境設定、教師のかかわりについて討議できる。 ④ クリッカーによる行動分析の結果をわかりやすく説明できる。				
授業の方法	この科目では、ビデオ資料による発達面に課題を持つ幼児児童の行動観察及びクリッカーを活用して、授業分析、保育実践場面や発達支援活動の振り返りのために収集されたビデオ映像等から可視化グラフを作成し、グラフの特徴と対応するビデオ映像を再生して、お互いの行動分析の特徴を提示し合いながら共同でディスカッションを可能にする、クリッカー「反応収集分析装置（PF-NOTE）」を導入した授業を展開する。パワーポイントと配布物を用いて方法を説明した後、ディスカッション、PF-NOTEを用いた実習を行う。				
ICT活用	PF-NOTEのクリッカー機能を用いた実習を取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	幼児のこぼの教室指導員として幼児の指導を担当した実務経験、そして精神発育相談員として、1歳半健診、3歳健診において、発達面の遅れの疑いのある幼児と保護者を対象に、心理相談を行った実務経験、さらに障害児保育事業における巡回指導専門員として保育所に在園している障害をもつ幼児の保育園の職員を対象に相談助言の実務経験等活かして、特別支援教育方法特論について授業を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	発達と発達障害について学習を深め、子ども発達の理解が特別支援教育の学習を深めるために重要であることを理解する。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
2	WHOの「障害」「能力」概念をめぐるパラダイムシフトについて理解し、発達と環境の関係について理解を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
3	人間の発達と生態学的環境(生態学的環境モデル、Bronfenbrenner, U.)について学び、特別支援教育を多次元、多層的に理解する。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
4	子どもの発達について、不登校と発達障害、学習と発達障害の視点から理解を深める。合わせて、発達障害の特性を環境との関係から理解することが重要であることを学ぶ。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
5	特別支援における基礎的環境整備、合理的配慮について、我が国の政策動向を踏まえて学ぶ。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
6	クリッカーによる行動分析のオリエンテーションとして、行動観察の歴史を学び、行動観察について理解を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
7	行動評定の実習を行うにあたって、行動評定の概要、観察者の知覚的・認知的バイアスについて理解を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
8	PF-NOTEを活用して、クリッカーによる行動評定を行い、各自が自分の行動評定の結果について発表する。そして、結果について協議することで、互いのもつ認知的枠組みについて理解を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		
9	特別支援教育において活用される教材としての絵本について、発達のドーナツ(佐伯)を用いて学び、発達に特別な支援を要する幼児指導の学びについて理解を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)		

10	発達に支援を要する幼児児童生徒の学びを状況論の観点から理解するために、幼児期から青年期に渡る発達の過程をビデオ教材により学び、受講生同士のディスカッションを通して理解を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
11	「関係力育成プログラム」を活用した指導の実際についての視聴覚資料を視聴し、討論を通してこのプログラムの特徴について自分の考えを深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
12	「関係力育成プログラム」によるロールプレイ体験をし、この指導法の持つ意味について考える。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
13	「関係力育成プログラム」によるロールプレイをビデオで撮影し、ロールプレイ後にPF-NOTEを活用して、クリッカーで分析を行い、レポートを作成する。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
14	各自持ち寄った「関係力育成プログラム」によるロールプレイ体験の振り返りのレポートを素材にして、討論を実施し、お互いの情報を共有する。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
15	クリッカーの結果と振り返りのレポートから、特別支援教育における幼児児童の学びを深める教材、教室環境、教師のかかわりについて理解を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	最後に授業内容をふりかえるレポートの提出を受講生に求める。
その他	50	各回におけるディスカッションへの参加度、発言内容 (内容の具体性、妥当性、論理性) を評価対象とする。

教科書	講義プリントを配布する。
参考文献	なし
履修条件・留意事項等	各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210100C1 こども発達特別演習		5500	2	1	後期
教員氏名	小椋 佐奈衣				
授業の位置づけ	「こども発達特別演習」は発達心理学と教育心理学の心理学分野に加え、人間の精神を考究するための学問であり、こども発達支援教育関連演習の科目である。				
授業の概要	①発達の知見に関してピアジュとヴィゴツキーの二大発達理論を基に認知発達とワロンの発達論を基に自己意識を中心に学ぶ。 ②精神発達を発達心理学と教育心理学の関連分野から考察する。 ③こどもの発達理論に関する研究や主要論文など取り上げ、そのテーマを演習形式で議論する。				
到達目標	①人間の精神発達に関する発達理論の知見を学ぶ。 ②「こども発達特論」の講義内容と関連付けして年齢別に発達段階を探索する。				
授業の方法	教科書、プリントを使用した講義形式ならびにディスカッション形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。授業内の小レポートで、学習内容の確認を行う。				
ICT活用	Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	該当なし。				
課題に対するフィードバックの方法	小レポート、リアクションペーパーに記入された受講生の意見を共有、フィードバックする時間を設ける。課題に対しては、コメントを返します。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	「発達の定義」と生涯発達とは何か？発達に関する学説の研究を分析して考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
2	「乳児期の環境と認知機能の発達」を理解すると同時に乳児を対象とした研究方法を学ぶ。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
3	「愛着の形成」について愛着に関する理論を学び、愛着と発達の関連性を考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
4	「乳幼児の言語発達」について言語獲得のメカニズムと文法能力の発達段階を考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
5	「幼児の認知発達」を理解すると同時に認知発達に関する学説の研究を分析して考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
6	「幼児期の遊びの発達」について、こどもの発達と遊びと仲間関係の関連性を考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
7	「こどもの自己意識の発達」について学び自己意識に関する学説の研究を分析して考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
8	「こどもの道徳性の発達」について環境要因と認知発達との関連性を考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
9	「児童期の思考と記憶の発達」を理解すると同時に論理的操作と記憶方略の発達を考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
10	「こどもの性役割」について社会的学習、認知発達、精神分析の理論を基に考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
11	「生涯発達」について人間が抱える問題の心理的・社会的背景を理解して考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
12	「こどもの発達と教育」について関連分野の学説の研究を分析して考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
13	「こどもの発達と家族関係」について親子関係に着目して発達に及ぼす影響を考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
14	「パーソナリティの発達」についてパーソナリティに関する理論と知見を学び考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		
15	「こどもとメディア」に着目して、こどもの社会認知と発達に及ぼす影響を考察する。	なし	配布資料の整理と文献と論文を参照する。		

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない。



定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	授業に関するレスポンスシートや課題の内容(50%)、授業での対話・討論への参加状況(50%)によって評価する。
その他	0	

教科書	「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房. 「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房.
参考文献	各回資料を配布する。
履修条件・留意事項等	
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
21011001 教育課程・方法特別演習		5505	2	1	後期
教員氏名	加藤 裕明				
授業の位置づけ	①「教育課程・方法特別演習」（以下、本授業）は、社会情動的スキルを重視する幼児期の遊びと、学童期の学びの接続に関し、探究する力を身につける科目である。 ②同時に、各自の研究テーマにふさわしい研究の方法に関する知見を深める科目でもある。 ③本授業は、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群、特に「教育課程・方法特論」、「教育内容・教材特論」、「教育内容・教材特別演習」、「教育方法実践特論」、「教育方法実践特別演習」等に接続する科目である。				
授業の概要	①本授業では、幼児教育で重視される社会情動的スキルを、学校教育にも取り入れ展開する方法に関し議論する。 ②授業での討議内容をふまえ、参加者各自が研究テーマを明確にできるよう、教育学的知見に関する議論を深める。 ③後半では、ゲストスピーカーも招き、保育・教育に関わる研究のための基本的な技法を学ぶ。				
到達目標	①本授業を通し、受講者は、現代の学校教育の諸問題に関する本質的な点を説明できるようになる。 ②また、現代の学校教育の改革の方向について、探究することができるようになる。 ③さらに、自分自身の研究テーマをより明確なものにし、そのための研究方法に関する知見を身に付ける。				
授業の方法	①この授業では、ゲストスピーカーも交え、パワーポイントや印刷配布物などによって解説する。 ②少人数のゼミ形式により、資料を活用した対話活動によってすすめていく。 ③ 社会人を含めた大学院生自身の経験をもとに、レポートを発表してもらい、それにもとづき、活発な対話・討議を軸にすすめる。				
ICT活用	・ Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、反転学習や遠隔授業をも効果的に取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	・ 公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践経験を有する。また、この間、部活動指導にも従事し、演劇教育を専門的に研究し、博士学位を取得した。以上の経験を活かし、子どもたちの信頼関係づくり、協働的、活動的な学びと表現創造、そして「社会情動的スキル」（非認知スキル）の育み方等について、具体的な子どもの姿を通して、授業の中に織り込んでいく。				
課題に対するフィードバックの方法	・ 本授業は、受講生によるレポート報告を軸に、対話活動を軸に展開し、その内容にしたがって論を組み立て、次回以降の授業を展開していく。つまり、授業のあり方全体が、常に受講生へのフィードバックによってデザインされる。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	・ ガイダンス：大学院における少人数授業及び対話的活動の方法と進め方について説明する。 また、参加者各自の研究テーマについて発表し、対話する。	・ シラバスを読んでおくとともに、自分の研究テーマについて概要を説明できるようにしておく。(25分)	・ 授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
2	・ デューイの実験学校（デューイ・スクール）における協働的な学びの意義に関して考察する。	・ 前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・ 授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
3	・ デューイの教育学をコミュニケーションの観点から考察する。	・ 前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・ 授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
4	・ デューイの教育学とフレーベルの「遊戯」（遊び）との接点に関して考察する。	・ 前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・ 授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
5	・ 現代における「習熟度別指導」の問題点を、協働的な学びの観点から批判的に検討する。	・ 前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・ 授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
6	・ 日本の現代教育の課題を、OECDによるPISA調査の結果から考える。	・ 前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・ 授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
7	・ 現代における協働的な学びの意義を、実践を踏まえ考察する。	・ 前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・ 授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
8	・ 調査・研究のために（1）教育学研究のための質的研究法について、演劇活動を対象として考察する。	・ 前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・ 授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
9	・ 調査・研究のために（2）心理測定法について学ぶ。	・ 前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・ 授業で配布された資料を熟読する。(25分)		

10	・調査・研究のために（3）統計学の基礎について学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
11	・調査・研究のために（4）アンケート作成法について学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
12	・調査・研究のために（5）データ解析の基礎を学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
13	・調査・研究のために（6）演習1 サンプルデータを基にデータの扱い方を学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
14	・研究のために（7）演習2 統計学的なデータ解釈の方法を学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
15	・まとめ：本授業全体をふりかえり、自分の研究テーマに関わって考えたことを参加者間で対話する。	・これまでの授業をふりかえり、自分の研究テーマに引き付け考えたことをまとめておく。(25分)	・授業をふまえ、自分の研究テーマをさらに具体的に設定し直す。(25分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	・授業内で活用するレポート内容（40%）、レポートの口頭発表（40%）、授業における対話、討議への活発な参加（20%）
その他	0	なし

教科書	授業内で、適宜必要なテキストや資料を印刷配布する。
参考文献	・ジョン・デューイ（上野正道訳代表2019）『デューイ著作集6 教育1 学校と社会、ほか』東京大学出版会 ・佐藤学(2004)『習熟度別授業の何が問題か』岩波ブックレット その他、授業の中で適宜紹介する。
履修条件・留意事項等	・各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210120C1 教育内容・教材特別演習		5510	2	1	後期
教員氏名	山口 宗兼				
授業の位置づけ	遊びを中心とする幼児期の学びと教科学習に重きを置く学童期の学びに一貫性を確保し、幼小の連続性と連携を構築することは、今日の重要な教育課題となっている。この課題に応えるために、本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別演習、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。				
授業の概要	教育内容・教材の開発においては、今日、教育内容をいかに具体化するかの道筋と特定の素材がいかなる教育内容にふさわしいかを見出す道筋、あるいはそれらを総合した道筋などの多様な方法が提案されているが、これらの先行研究と事例に学び、受講者にはいくつかの課題について、具体的な教材の作成を課す。受講生自身の経験を通じた課題意識を最大限に生かし、課題についての遂行過程及び成果をもとに、教育内容・教材研究に関する意欲を喚起し、力量を養うものとする。				
到達目標	1. 教育内容教材論の理論的な理解を応用し、教材の吟味・批判ができる力量を形成する。 2. すでにある教材について改良を加え、新たな教材を開発する意欲・力量を形成する。 3. 幼小を貫くカリキュラムの構築に向けて、受講生自身の経験を通じた課題意識を生かした見通しをもてる力量を形成する。				
授業の方法	配布印刷物（課題など）を用いて演習形式ですすめる。 次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。				
ICT活用	特になし				
実務経験のある教員の教育内容	幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。				
課題に対するフィードバックの方法	次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	本演習が、教育内容・教材特論での研究成果をもとに、これを具体的な教材作成に結実させるための力量を養う目的を持つことを説明する。	シラバスを十分に確認しておくこと。(25分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)		
2	教材作成には、多様なアプローチがあり得ること、また必要であることを、特論の成果をまとめる形で捉え（例えば、内容から教材へ（基数の本質→タイトル）、教材から内容へ（すぐれた絵本→多様な人間像の提示）、以後の作業の指針として活用する。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)		
3	教材から内容への一つの試みとして、モンテッソーリ教具をとりあげる。この教材が、いかなる思考操作を求めているかを受講生相互の討論を通して検討し、改良を加えることによって、どのような教育内容に資するかを探求する。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)		
4	絵本を、そこに描かれる人間関係（つむがれる関係、こわれる関係）、人間像の（強さの中の弱さ、弱さの中の強さ）、境遇、運命等多様な観点（観点の発見を含めて）から分類・整理し、一まとまりの教材群（教育内容）を作成する課題を探す。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)		
5	作成したリストに基づき、受講生間において、交流・討論をし、絵本の教材性と取り扱いについて探求する。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)		
6	ことばに関するしりとり・回文などの「遊び」について、日本語の拍、音節、アクセント等に関する基本的な理解をベースにして、ルール作りなどの改善・開発をもとに文字学習の基礎となるような教材・遊びづくりに取り組む。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)		
7	入門期の文字指導について、教科書やさまざまなテキストについて、吟味検討し、適切なあり方について研究する。幼小のカリキュラムについても望ましいあり方を構想する。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)		
8	第6講と第7講の課題について、レポートを交流し、幼小のカリキュラムの連続性について、一定の知見を得よう探求する。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)		
9	量について、保存概念の獲得の状況などを考慮しながら、長い・短い、速い・遅いなどの言葉と体感を結びつける教材の考案を課す。この際モンテッソーリ教具の量概念形成への改善を試みる。	事前準備（レジュメ作成）を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)		

10	研究の成果を交流し、未測の量の段階での指導方法と意義について、受講生間で討論をし、研究を深める。	事前準備（レジメ作成）を行うこと。（60分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（25分）
11	入門期の数の指導について、教科書教材を批判的に検討する。あわせて、この期の数指導についての種々のプランや提言について比較検討し、その妥当性を明らかにする。	事前準備（レジメ作成）を行うこと。（60分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（25分）
12	加法は、具体物の提示ないし図示は、併置により可能であるが、減法は求残の提示、図示が極めて難しい。これを、本演習の最後の課題として課す。	事前準備（レジメ作成）を行うこと。（60分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（25分）
13	課題について、創案した教材を交流し、それによる指導の可能性、方法等について研究する。	事前準備（レジメ作成）を行うこと。（60分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（25分）
14	幼児教育における動画使用の可能性と意義について、各領域との関連を考慮しながら、受講生間で討論をし、考察する。	事前準備（レジメ作成）を行うこと。（60分）	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。（25分）
15	まとめとして、本演習で得たものについて、レポートを作成し、討論する。	事前準備（レジメ作成）を行うこと。（60分）	すべての返却された課題や資料などに必ず目を通し、復習を行うこと。（25分）

成績評価の方法		
区分	割合（%）	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	課題レポートの提出
その他	0	なし

教科書	講義資料はその都度、レジメを事前に配布する。
参考文献	千葉武夫他編「新基本保育シリーズ第13巻 教育・保育カリキュラム論」中央法規、第2講（山口宗兼分担執筆）
履修条件・留意事項等	教育内容・教材特論も履修すること。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210130C1 教育方法実践特別演習		5515	2	1	後期
教員氏名	小田 進一				
授業の位置づけ	本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別研究、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。				
授業の概要	幼児教育実践についての教育実践方法論の成果をもとに、本演習では、より具体的に実践現場における課題を抽出し、その性格・特徴を明らかにするとともに、解決に向けていかなる方策があり得るかを研究する。教育実践は、実践を展開するうえでの諸環境の調整、組織者のリーダーシップの発揮、実践者相互の関係性の構築、保護者・地域社会との連携等を研究と事例を検討し、諸課題の解決もこうした実践の全体像に位置づけられて可能となることを明らかにする。ここでは、受講生が演習へ積極的に参加できる環境を提供し、大学院生が受講生相互の経験を通じた経験知を提示しあうことを含めて、重層化した理解を深める演習を展開する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 共同で研究課題に取り組み、幼児教育実践について、的確に批判、分析し、その特徴をつかみとることができる。</li> <li>2 幼児教育実践の全体像を理解し、個々の実践の意義を評価できる。</li> <li>3 幼児教育実践に、強い確信と意欲をもって望むことができる。</li> <li>4 お互いに「受講生自身の経験を通じた課題」をベースにした情報交換をしながら、研究課題を深めていく方法について習得する。</li> </ol>				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をとした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開する。				
ICT活用	ICT活用する調査方法についても検討する。				
実務経験のある教員の教育内容	保育園約25年、幼稚園18年と乳幼児期の保育に携わってきた。保育実践のみならず運営や経営についての役割も担ってきた。実習生の受け入れプログラム作り作りや、障児の受け入れと充実、保育現場における研修体制づくり、保育内容の充実に向けての見直し、保育者の実践研究等の課題に取り組んできた。これらの実務から得た内容と研究活動を基にして、個々の学生の研究に向かう姿勢を支えていく。				
課題に対するフィードバックの方法	授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)		事後学習および必要時間(分)	
1	本講義が教育方法実践特論を土台とした、より実践的な教育実践へのアプローチであること、教育実践の特徴を見出す観察力を養い、それぞれの実践の力量の向上につなげようとするものであることを理解する。次回にむけ、これまでの知見をもとに幼稚園・保育所への調査票の作成に着手することを確認し、手順及び分担等を受講生同士で話し合い、最も効果的に取り組みやすい研究体制を提案する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。		事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。	
2	教育実践の特徴を把握するための調査票を作成する。各受講生があらかじめ準備した調査内容をつき合わせ、討論を通して、最も、回答者に負担がからず、かつ、資料的価値の高い情報を収集できるように工夫する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。		事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。	
3	調査票の成案を作成し、各自、分担し合いながら、各幼稚園・保育所に発送する準備を進める。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。		事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。	
4	回収を待つ間、日本において定評のある実践及び外国で注目されている実践(例えば、プロジェクトアプローチ)などの先行事例を研究し、視野を豊かにする。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。		事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。	
5	回収したアンケートの集計を行う。いかに分析するかの担当者からの課題に基づいて、基礎票の読み取りに着手する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。		事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。	
6	アンケートの集計に分析を加え、討論し、レポートにまとめる。この作業を通じて、観察対象園・所を定める。(アンケートでは、あらかじめ承諾を問うておく。)	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。		事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。	
7	特徴ある活動場面(遊び、作業行事等)の視聴と担当者(本演習に参加)へのインタビュー及び討論(A園)を行う。(インタビューの進め方に当たっては、あらかじめ、受講生の話し合いを通じた枠組みに基づいて、半構造化された面接シートを用いて行う。なお、ビデオ収録は教員が行う)。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。		事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。	
8	特徴ある活動場面(遊び、作業行事等)のビデオ収録・視聴と担当者(本演習に参加)へのインタビュー及び討論(B園)	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。		事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。	



9	特徴ある活動場面（遊び、作業行事等）のビデオ収録・視聴と担当者（本演習に参加）へのインタビュー及び討論（C園）	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を担い合いながら事前準備をする。	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。
10	3園のそれぞれの実践から、何を学び得るかの討論をおよび観察レポートの作成を通して、それぞれの園の子どもの発達支援の特徴を浮き彫りにする。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を担い合いながら事前準備をする。	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。
11	A園責任者へのインタビュー（本演習に参加）、教育課程作成のプロセス、打ち出している園の特徴、教育実践の特徴、家庭・地域社会との連携、インクルーシブな視点の有無、リーダーシップ・同僚性への腐心等について、アンケートの内容をより具体的に調査する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を担い合いながら事前準備をする。	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。
12	B園の責任者へのインタビューにおいても、同様の取り組みを進める。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を担い合いながら事前準備をする。	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。
13	C園の責任者へのインタビューにおいても、同様の取り組みを進める。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を担い合いながら事前準備をする。	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。
14	A、B、C園のインタビューから何を学び得るか討論及びレポートの作成を通して明らかにする。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を担い合いながら事前準備をする。	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。
15	本演習で研究した成果の発表と講評（講義担当者及びその他の指導教員も参加し、討論に参加する）。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を担い合いながら事前準備をする。	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	70	調査票の作成及び半構造化面接による資料の収集
その他	30	受講生の演習への積極的参加

教科書	特に定めない。
参考文献	その都度指定する。
履修条件・留意事項等	共同での教育・研究活動が中心になるので受講生同士で十分連絡を取りながら、本演習活動に参加すること。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210140C1 発達障害実践特別演習		5520	2	1	後期
教員氏名	後藤 広太郎				
授業の位置づけ	インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。具体的には、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の7科目が設定されている。				
授業の概要	発達障害に含まれる主な障害として、学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、高機能自閉症、アスペルガー障害があげられる。ここでは、「障害という問題を構成している諸要因の関連」の枠組みから、発達障害を抱える人々の課題と解決の糸口を捉えていく。さらに、この演習では、認知神経科学的研究、特に、脳血流分野の研究について、機器操作の実習を通して学習し、討論を通して、発達障害研究の一つの切り口としての理解を深める。				
到達目標	次の4点を授業の到達目標とする。 (1) 学習障害、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、高機能自閉症、アスペルガー障害等の発達障害の課題を抱える人たちの行動特性を理解できる。 (2) 発達障害の課題を抱える子ども達の行動特性が社会的場のなかで、どのような形で、他者とのかわりのひずみを生じさせているかを関係論的観点から捉え、支援の手がかりを発見すること。 (3) 脳血流の測定機器の活用の仕方を学習し、発達障害の課題を抱える児童・生徒に関する研究について理解を深める。				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討論の方法を中核にすえて授業を展開する。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	なし				
課題に対するフィードバックの方法	提出された授業の振り返りのレポート及びクリッカーによる分析結果にコメントを書き添えてフィードバックする。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	発達と発達障害について学習する。ここでは、発達論的、関係論的観点から発達と発達障害の概念を明らかにする中で、発達障害ということばの持つ意味について学習し、発達障害についての基礎的理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)		
2	小学校・中学校・高等学校の通常の学級に在籍する発達障害の抱える問題と、一人一人の発達に応じた個別指導、授業における教材教具の工夫などの実態把握をし、一人一人の教育的ニーズにきめ細かく応えていく、効果的な発達支援手法についての情報を持ち寄り、受講生全員で情報を交換し合いながら、発達障害の課題を抱える子ども達の今日的課題を明らかにする。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)		
3	発達障害とはどのような障害なのかについてその輪郭を捉える。ここでは、配布された参考資料を活用して受講生全員で討論をし、お互いの情報を提供しあいながら、学習障害 (LD)、注意欠陥/多動性障害 (ADHD)、高機能自閉症等、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要としている児童生徒についての理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)		
4	学習障害 (LD) とはどのような障害なのかを学習する。学習障害の子ども達は、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、または推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な課題に直面していることを理解する。受講生が相互に教育情報を出し合いながら、受講生間の情報を積極的に吸収しあい、支援の在り方についての手がかりを探る。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)		
5	「へき地保育所におけるインクルーシブな保育環境に関する研究 北海道文教大学研究紀要 第40号」の論文を読み、「保育場面で気になる子ども」を取り巻く保育環境を明らかにし、受講生相互の討論を通して、保育場面で気になる子どもの行動特徴を明らかにし、インクルーシブな保育環境を構築するための手がかりを明らかにする。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)		



6	「障害または障害の疑いを持つ幼児の父母の育児感情、コミュニケーション障害研究、第8号」の論文を読み、討論を通して、就学前の親の育児効力感と育児関連ストレスについての関係並びに父親と母親とで感じ方の差、夫婦間での関係について学習を深める。このことを通して、発達面に課題をもつ子どもに対する養育の場について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
7	「空間把握における学習障害児の四肢運動の適応能力に関する基礎研究。電子情報通信学会『信学技法』、第23号」を読み、受講生全員による討論を通しながら、認知神経科学的側面から学習障害児の特性について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
8	「空間的に視覚と固有受容感覚を矛盾させた状態での到達運動における前頭前野の活動について—近赤外線スペクトロスコピーによる検討—。日本脈管学、第48号、第4巻」の論文をベースにして、実際に、認知神経科学的側面から情報を収集する実験的方法について学習し、討論を通して、発達障害児の抱える特性についての理解を深める。ここでは、実際に、測定機器の仕方の学習も行う。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
9	指定文献「実践への保育学。同文書院」のなかから、受講生のそれぞれが特に、発達障害児に対する教育実践において役立つと思われる「興味深い教育情報」を抽出し、それらを討論素材として提示し、討論を通して、保育現場における発達障害児への支援についての理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
10	3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする「自閉症」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行う手がかりとはなにか」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
11	基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示す「学習障害(LD)」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援」とは何か」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
12	年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び/又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業に支障をきたす「注意欠陥多動性障害(ADHD)」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行うための手がかり」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
13	3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わない「高機能自閉症」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行うための手がかり」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
14	知的発達の遅れを伴わず、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わない「アスペルガー症候群」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行うための手がかり」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
15	演習全体を振り返り、この演習を通して学習したことについて受講生それぞれが、自分の意見または感想を述べ合い、それらを素材にして、学習の成果についてレポートを作成する。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること (90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	

定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	この演習での積極的な参加の状況、及び、レポートにより総合的に評価する。
その他	0	

教科書	なし
参考文献	なし
履修条件・留意事項等	授業と並行させて認知神経科学的側面から情報収集する実験の方法の実際について、体験を通して学習する。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210150C1 こども発達支援・臨床相談特別演習		6540	2	2	前期
教員氏名	山本 愛子				
授業の位置づけ	インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきました。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置しています。具体的には、保護者支援特論、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の7科目が設定されています。				
授業の概要	発達面に課題のある子どもたちへの支援・相談について、理論学習および体験実習を通して実践的に学びます。ここでは、主として、本学の子育て教育地域支援センター（文教ペンギンルーム）をベースにして、①集団遊戯療法としての「関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）」によるロールプレイ体験及び支援場面の振り返りのためのビデオ記録によるクリッカー分析、②子どもを取り巻く家族関係への支援のための「FIT(Family Image Test)」、③子どもの特性を把握のための発達・心理検査の学習などを中心に、受講生の体験も交えながら学びを深めます。				
到達目標	理論学習とあわせて体験学習や討論を行うことを通じて、子どもの発達支援・相談における理論と方法について理解を深めることを目標とします。また、関係力育成プログラムに基づくロールプレイおよびクリッカーを活用した行動観察・分析を通して、発達支援・相談のために必要な観察力を高めることを目指します。				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成する」ために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開します。				
ICT活用	この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）による子どもの行動分析を行います。ここでは、特に集団遊戯療法場面をクリッカーを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通じて、遊戯療法の理論と実際に関する理解を深めます。				
実務経験のある教員の教育内容	授業担当者は、公認心理師・臨床心理士・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。				
課題に対するフィードバックの方法	クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。また、授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていきます。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーションおよび授業担当の発達支援・心理臨床に関する学習の軌跡と臨床実践の紹介をします。ここでは、演習の内容や目的、進め方、受講にあたっての留意事項等についての説明を行います。	発達支援、臨床相談というキーワードについて事前に調べておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
2	発達支援・相談における子どもの特性の理解：子どもにおける過去・現在の対人関係について、「私の対人地図」の作成を通して支援の方法を学びます。ここでは、「私の対人地図」の作成によって、これまでの対人関係・現在の対人関係をふりかえり、マップとして視覚化する体験を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
3	発達支援における遊戯療法に関する理論(1)：遊戯療法に関する文献の講読を通して、発達支援・相談のあり方について学びます。また、関連する映像資料を視聴することを通じ、遊戯療法についての具体的・実践的なイメージを持つことを目指します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
4	発達支援における遊戯療法に関する理論(2)：集団遊戯療法に関する文献の講読を通して、対人・対物関係場面における子どもに対する環境の側のかかわりについて、討論を交えながら理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
5	発達支援・相談における遊戯療法の実践(1)：集団遊戯療法の実践について映像を視聴し、討論を通して共通理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
6	発達支援・相談における遊戯療法の実践(2)：発達支援に関わる相談の事例を想定して、集団遊戯療法のロールプレイ実習を行います。ここでは、子ども・指導者・観察記録の役割担当によって集団遊戯療法の実践的な学びを深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
7	発達支援・相談における遊戯療法の実践(3)：事例の設定による集団遊戯療法のロールプレイ場面について、子どもチームおよび指導者チームの動きに着目し、行動観察・分析を行います。ここでは、クリッカーを用いて分析を進めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		

8	家族関係に関わる支援の理論と実際(1):日本における家族療法の歴史・背景について学び、子どもおよびその家族の構成員が抱く「家族イメージ」に関わる理論について学びます。特に、小学生とその家族による家族イメージについてFIT(Family Image Test)の類型を通して学習します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
9	家族関係に関わる支援の理論と実際(2):家族療法についてロールプレイを通して理解を深めます。ここでは、子どもの家族関係に関わる支援として、想定した相談事例に基づいた家族合同面接のロールプレイを行い、家族療法について実践的に学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
10	家族関係に関わる支援の理論と実際(3):家族療法における心理学的アセスメントの体験を通してこの療法の有用性について理解を深めます。ここでは、家族療法におけるアセスメント法として、家族イメージ法(FIT:Family Image Test)に取り組み、結果の分析を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
11	発達支援に関わる心理アセスメントの理論と実際(1):ブロンフェンブレンナーによる生態学的システム理論について学び、社会的文脈から子どもの発達を捉える視点について討論を通して理解を深めます。また、子どもを取り巻く環境における社会資源・子ども自身のもつ内的なリソースについて、臨床心理学的な視点から検討します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
12	発達支援に関わる心理アセスメントの理論と実際(2):発達支援に関わる知能検査について学びます。ここでは、主として、田中ビネー式知能検査の理論的枠組みについて学びます。このことを通して、発達支援における知能検査の理論的な位置づけについて理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
13	発達支援における心理アセスメントの理論と実際(3):発達支援に関わる心理検査について学びます。ここでは、主として、投影法における文章完成法(SCT)・P-Fスタディの理論について学び、子どものパーソナリティ特性について理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
14	相談事例を通じた発達支援・相談の理解:これまでに演習を通して学んできたことを総合して、母親からの相談を想定した相談事例について見立てから具体的な相談・支援の進め方まで、受講生自身が検討し、課題解決・発展のための手立てを分析していきます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
15	演習の振り返りと学習の成果の確認:ここでは、この演習で学んだことについて、全体のまとめを行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)

成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	75	演習場面への参加態度、グループでの活動状況、レポート課題提出によって評価します。
その他	25	ロールプレイ実習での体験をテーマとする「実習体験報告書」(所定の書式)によって評価します。

教科書	教科書の指定は行いません。必要な資料はその都度配布します。
参考文献	臨床発達支援の専門性 西本絹子・藤崎真知代編著 臨床発達心理士認定運営機構監修 ミネルヴァ書房
履修条件・留意事項等	発達支援・カウンセリングのロールプレイ、テーマに基づく討論、グループ体験学習への積極的な参加が求められます。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210160C1 気になる子どもの発達支援特別演習		6550	2	2	後期
教員氏名	木谷 岐子				
授業の位置づけ	インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、多様なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。具体的には、本講義「気になる子ども発達支援特別演習」をはじめとして、保護者支援特論、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の8科目が設定されている。				
授業の概要	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」をする。そのために、大学院生自身の経験を通じた課題を提示し、活発な討議を通して授業を展開する。				
到達目標	こどもの多様なニーズを理解し、いかにインクルーシブな教育・保育への取り組みを進めていくかについて、具体的に思考し、論ずることを到達目標とする。				
授業の方法	授業は演習方式で実施し、受講者全員で授業を作り上げる参加型の方式を採用する。そこでは、各自のこれまでの経験を全体で共有できるような場を設定する。				
ICT活用	パソコンを用いて、発表や討論の資料を作成する。Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	臨床心理士/公認心理師として、発達相談やスクールカウンセラー業務に従事した実務経験を活かし、多様なニーズを持つこどもの発達支援についての演習を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	授業におけるディスカッション、及びレポートへのコメントによってフィードバックする。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	・オリエンテーション 多様なニーズを有する幼児・児童に関する社会的動向の概要を理解する。また、これまで自身の経験を振り返る。	多様なニーズを有するこどもについて思い浮かぶ事柄を書き出す。(90分)	授業のなかで共同で出した、多様なニーズを有するこどもについて、各自整理しておく。(90分)		
2	・多様なニーズを有する幼児について① 多様なニーズを有する幼児の発達支援に関する動向を理解する。	事前に配布した資料に目を通しておく。(90分)	多様なニーズを有する幼児への支援の動向について、各自整理しておく。(90分)		
3	・多様なニーズを有する幼児について② 多様なニーズを有する幼児の発達支援の様子を映像資料等を通して把握し、理解を深める。	多様なニーズを有する幼児に対する疑問点や関心がある事柄について書き出しておく。(90分)	映像資料から得た学びをまとめておく。(90分)		
4	・多様なニーズを有する児童について① 多様なニーズを有する児童の発達支援に関する動向を理解する。	多様なニーズを有する児童について、各自の経験をまとめておく。(90分)	配布されたレジュメを読み返して、各自整理しておく。(90分)		
5	・多様なニーズを有する児童について② 多様なニーズを有する児童の発達支援の様子を映像資料等を通して把握し、理解を深める。	多様なニーズを有する児童に対する疑問点や関心がある事柄について書き出しておく。(90分)	映像資料から得た学びをまとめておく。(90分)		
6	・多様なニーズを有する幼児・児童に関する研究動向① 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援についてまとめられた文献を紹介する。文献の内容を基に、各自のこれまでの経験と照らし合わせながらディスカッションする。	事前に演習に必要な資料を配布するので、目を通しておく。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)		
7	・多様なニーズを有する幼児・児童に関する研究動向② 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に関し、各自、関心を絞って、論文を収集し、レジュメを作成する。	各自テーマについての関心事を整理しておく(90分)	収集した資料を読み、要点を絞ったレジュメを完成させる(90分)		
8	・多様なニーズを有する幼児・児童に関する研究動向③ 各自、関心を絞って収集した論文についてレジュメに沿って紹介し合う。	各自作成したレジュメを点検する(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)		
9	・エピソード記述法から実践の捉える① エピソード記述法を理解し、多様なニーズを有する幼児・児童との生きた関わりを捉える方法論を理解する。	エピソード記述法について調べておく。(90分)	授業で配布されたレジュメを元に振り返りを行う。(90分)		
10	・エピソード記述法から実践の捉える② エピソード記述法によって書かれた文献を通し、方法論の理解を深める。	各自の日常の中でのエピソードを収集する(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)		



11	・エピソード記述法から実践を捉える③ エピソード記述法を用いて、自身と他者の生きた関わりの記述を書き起こす演習を行う。	各自の日常の中でのエピソードを収集する(90分)	授業の振り返りをし、必要な事項について整理しておく。(90分)
12	・エピソード記述法から実践を捉える④ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援の実践場面について、各自エピソード記述法を用いて記述する。	各自の実践場面からエピソードを収集する(90分)	授業の振り返りをし、必要な事項について整理しておく。(90分)
13	・エピソード記述法から実践を捉える⑤ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援の実践場面について、各自エピソード記述法を用いて記述したものに考察を加え、他者も了解できる形に洗練させる。	各自の実践場面から切り取ったエピソードについて考察を深める(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
14	・エピソード記述から実践を捉える⑥ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援の実践場面について、エピソード記述を用いて記述した各自の実践を紹介し合う。	考察を加えたエピソード記述を点検する。(90分)	授業の振り返りをし、必要な事項について整理しておく。(90分)
15	・まとめ 15回の授業を通して得られた気づきや、考えについてレポートにまとめ、それを元にディスカッションする。	全15回の授業についての振り返りを行う。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	演習での発表及び討論への参加の積極性によって評価する (80%)。分析資料の作成(レポート)の取組(20%)
その他	0	なし。

教科書	演習に必要な資料はその都度配付する。
参考文献	インクルーシブ教育ってどんな教育? 青山新吾編 学事出版 エピソード記述入門-実践と質的研究のために 鯨岡峻 東京大学出版会
履修条件・留意事項等	各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210170C1 発達支援分析評価法実践演習		5560	2	1	前期
教員氏名	山本 愛子				
授業の位置づけ	本研究科は「高度な学問的成果と実践を往還しながら創意ある実践を展開できる力量を身につけた、将来の中堅のリーダーとなる人材の養成」を意図していることから、教育課程に「発達支援分析評価法実践演習」の科目を必修科目として設定しています。この科目では、クリッカーを活用して、授業分析、保育実践場面や発達支援活動の振り返りのために収集されたビデオ映像等から可視化グラフを作成し、グラフの特徴と対応するビデオ映像を再生して、互いの行動分析の特徴を提示し合いながら共同でディスカッションを可能にします。				
授業の概要	発達支援に関するクリッカーを活用した分析・評価法について実践的に学びます。ここでは、実際に、発達面に課題のある子どもたちの集団遊戯療法として開発された「関係力育成プログラム（通称文教ベンギンメソッド）」によるロールプレイング実習および実際の臨床体験実習を行い、実習後に、自分たちの実習場面の映像について、反応収集提示装置「クリッカー（PF-NOTE）」を用いた分析を通して、振り返りを行い、次に続く発達実践演習及び課題研究を有効に進めるための視点の設定の仕方について学習します。				
到達目標	この演習では、本学子育て教育地域支援センターをベースとして、発達支援における臨床実践と分析・評価の方法を修得することを目標とします。				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成する」ために、社会人を含めた大学院生自身の経験をとおした 課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開します。				
ICT活用	この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）による子どもの行動分析を行います。ここでは、発達支援にかかわって、特に集団遊戯療法場面に焦点を当て、クリッカーを用いた分析を体験します。受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、集団遊戯療法の理論と実際に関する理解を深めます。				
実務経験のある教員の教育内容	授業担当者は、公認心理師・臨床心理士・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。				
課題に対するフィードバックの方法	クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。また、授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていきます。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーションおよび授業担当者の教育相談に関する学習の軌跡と教育臨床実践の紹介をします。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての説明を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
2	受講生相互の自己紹介を通して、この演習を円滑に進めるためのベースを構築します。また、ここでは、受講生がペアになり、相互スキイグルに取り組みます。これらの取組を通して、発達支援に携わる者としての自己理解の重要性について理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
3	発達支援における実践のフィールドに関する理解：ここでは、この演習のベースとなる本学子育て教育地域支援センターの取組について、センター設立の経緯と基本的枠組み、センターによる子育て・発達支援の実践と研究の実際を中心に学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
4	発達支援と臨床心理学の世界：発達支援と臨床心理学の関係性、歴史、背景について学びます。ここでは、臨床心理学の成り立ちについて学び、臨床心理学について理解を深めます。また、発達支援に関わる専門職および専門資格、職務内容、職域についても学習します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
5	発達支援と子ども理解（1）：発達支援において、子どもの状態像、性格特性、心理・発達面の状況を多面的に捉えるための子ども理解の仕方について学びます。ここでは、ブロンフェンブレナーによって提唱された子どもの発達における生態学的システム理論の概念的枠組みを中心に学び、社会的文脈から子どもを理解するための視点の当て方について学習します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		
6	発達支援と子ども理解（2）：発達支援における子ども理解の手立てとして風景構成法の理論と実際について学びます。ここでは、受講生がペアになり、子ども役とカウンセラー役に分かれて、実際に風景構成法の実施について、ロールプレイングを通して学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要なと思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)		

7	子どもの行動観察と発達支援：発達支援における行動観察の方法について学びます。ここでは、発達支援における行動観察の意義とその種類・方法について理解を深めます。また、保育臨床のフィールドにおける子どもの遊びの場面の観察・方法について学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
8	子どもの発達を支える専門職における「自己の内面に関する理解・分析」：子どもの発達支援・教育に携わる立場として重要となるセルフアウェアネスについて学びます。ここでは、特に、自己の内面における価値の明確化のために、「あれか・これかの選択」「私のしたい20のことがら」の体験学習に取り組みます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
9	発達支援における遊戯療法の実践と分析(1)：遊戯療法に関する文献の講読を通して、発達支援・相談のあり方について学びます。ここでは、集団遊戯療法として開発された「関係力育成プログラム」に関する理論的枠組みを学び、それに基づく発達支援について理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
10	発達支援における遊戯療法の実践と分析(2)：プレイルームにおいて、関係力育成プログラムに基づいたロールプレイ実習を行います。ここでは、集団遊戯療法として開発された関係力育成プログラムの基礎理論に基づいて、ロールプレイを体験します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
11	発達支援における遊戯療法の実践と分析(3)：関係力育成プログラムによるロールプレイ実習場面の映像を視聴し、クリッカーを用いて分析を行います。ここでは、反応収集提示装置「PF-NOTE」によるロールプレイ場面の評価・分析を実施し、その可視化グラフの波形に着目して全体で振り返りを行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
12	子育て・発達支援における集団遊戯療法の実践と分析(1)：関係力育成プログラムのロールプレイ実習を踏まえて、実際に、子どもたちを対象とした臨床実践の計画を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
13	子育て・発達支援における集団遊戯療法の実践と分析(2)：子育て教育地域支援センターにおいて、関係力育成プログラムに基づく臨床実習を行います。ここでは、支援の実際について、体験を通して理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
14	子育て・発達支援における集団遊戯療法の実践と分析(3)：臨床実践場面の映像を視聴し、クリッカーを用いて分析を行います。ここでは、事前に設定した観察の観点に基づき、クリッカーを用いて臨床場面の分析を進めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
15	演習の振り返りと学習の成果の確認：ここでは、この演習で学んだことについて、全体のまとめを行います。「発達支援における分析・評価」に焦点をあてて考察を行い、意見交換を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	75	演習場面への参加態度、グループでの活動状況、レポート課題提出によって評価します。
その他	25	遊戯療法に関するロールプレイ体験に基づいた実習体験報告書(所定の書式)によって評価します。

教科書	教科書は使用しません。必要な資料はその都度配布します。
参考文献	高度情報化時代の「学び」と教育 渡部信一監修 東北大学出版会 社会・情動発達とその支援 近藤清美・尾崎康子編著 臨床発達心理士認定運営機構監修 ミネルヴァ書房
履修条件・留意事項等	発達支援に関わるロールプレイ、臨床体験、グループによる体験学習の取組への積極的な参加が求められます。
備考欄	



科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210180C1 こども発達学実践演習I		6580	2	2	前期
教員氏名	山本 愛子、西野 美穂				
授業の位置づけ	実践研究のための研究資料の作成や院生相互の「行動観察」の力量形成にとって大きな意味を持つと考えられる。この実践演習の担当者には実践研究に精通した教員を配置する。また、この実践演習と並行させながら、院生各自が関心を持つ実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が教育課程に組み込まれている。この実践演習には実践研究に精通した指導教員を配置する。実践研究のためのフィールドとして、本学の「子育て教育地域支援センター（通称文教ペンギンルーム）」、附属幼稚園及び院生の受け入れが可能な小学校等が予定されている。				
授業の概要	本学の子育て教育地域支援センター（文教ペンギンルーム）をベースにして進められる。ここでは、主として、就学前の地域の子どもと保護者に対する発達支援の取組に陪席しながら、①発達支援対象の子どもと保護者の実際の支援を進める上で必要とされる情報の収集（子どもの発達の状況・特性等の情報を含む）と支援計画の立案の検討作業への参画、②関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）をベースにした発達支援活動（ペンギン・ミュージックプログラムを含む）への参加、③ケースレポートの作成を通して「場を通した支援のあり方」について実践的に学習する。これらの学習の成果は、次に続く修士論文の作成のための基礎資料として有効に活用できるようにしていく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）の理論について理解できる。</li> <li>2. 関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）を用いた指導実践に参加し、プログラムに沿って、未就学の子ども（特別なニーズをもつ子どもを含む）と保護者に対する関わりをとることができる。</li> <li>3. ペンギン・ミュージックプログラムについて、子どもを対象とした絵本の読み聞かせに対して音楽を導入する実践の方法を理解できる。</li> </ol>				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、実践演習のためのフィールドでの経験を全員で話し合う場を設定し、各自の実践経験を共有する形で学習を進めていく。				
ICT活用	この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）を用いた行動分析を行う。ここでは、発達支援にかかわって、特に集団遊戯療法場面・音楽を導入した絵本の読み聞かせ場面に焦点を当て、クリッカーを用いた分析を体験する。受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、幼児・児童の発達支援に関する理解を深める。				
実務経験のある教員の教育内容	<p>授業担当者（山本）は、公認心理師・臨床心理士・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有している。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。</p> <p>授業担当者（西野）は、ピアノの演奏家として35年間活動し、ドイツバロック、古典派の芸術音楽のソリスト等の実務経験を有する。また、子どもたちを対象に、恵庭市教育委員会主催のピアノソロコンサートで16年間演奏し、社会貢献を続けてきた。これらの実務経験及び研究業績を生かして授業を行う。</p>				
課題に対するフィードバックの方法	授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	発達支援のフィールドとしての子育て教育地域支援センター（文教ペンギンルーム）について、センターにおける理論的枠組み、活動内容等の基本事項を学ぶ。また、ここではゲストスピーカーとして子育て教育地域支援センターのセンター員による話題提供を得て、センターの成り立ちや設立から現在までの地域における支援活動の実践について理解を深める。（担当：山本・西野）	（準備学習）事前に配布されたシラバスに目を通しておく。（20分）	（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。（25分）		
2	子育て教育地域支援センター（文教ペンギンルーム）で作成した「関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）」に関する指導マニュアルを読み、この指導法について学習する。さらに、「関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）」を活用した研究論文の講読を行う。（担当：山本）	（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）	（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。（20分）		
3	「関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）」を活用した研究論文を読み、その内容に関してレジュメ・パワーポイント資料を作成し、発表とディスカッションを行う。（担当：山本）	（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）	（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。（20分）		
4	「関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）」によるロールプレイ体験学習を行う。指導者役（チーフ役・サブ役・アシスタント役）、子ども役、保護者役、観察記録役に分かれたロールプレイ体験を通して、このプログラムの実際について学ぶ。また、ロールプレイ体験をふりかえり、それぞれの担当役の立場から考えたことについてレポートを作成する。（担当：山本）	（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）	（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。（20分）		
5	「関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）」の指導に関する評価法について学習する。事前に配布された評価方法に関する研究論文及びクリッカーを活用した研究論文を読み、内容を整理・理解しておくこととする。（担当：山本）	（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）	（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。（20分）		

6	<p>クリッカー（反応収集提示装置）を用いた分析法について学ぶ。ここでは、実際の関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）に基づいた受講生たち自身のロールプレイ体験場面の映像について、クリッカーを用いて分析を行うことを通して、クリッカーを用いた分析の意義について学習する。また、ロールプレイ体験とその分析結果に基づいて「実習体験報告書」を作成する。（担当：山本）</p>	<p>（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）</p>	<p>（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。（20分）</p>
7	<p>子育て教育地域支援センター（文教ペンギンルーム）での関係力育成プログラム（文教ペンギンメソッド）による実際の小集団指導場面への陪席を通して、多様な特性をもつ幼児・児童（特別なニーズをもつ幼児・児童を含む）の発達支援の実際について学習する。また、指導実践記録の作成及び特定の事例についてのケースレポートを作成する。（担当：山本）</p>	<p>（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）</p>	<p>（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。（20分）</p>
8	<p>子育て教育地域支援センター（文教ペンギンルーム）において音楽を導入した子育て支援活動として考案・実践されている「ペンギン・ミュージックプログラム」について、導入の経緯や内容、目的、理論的背景について学ぶ。また、ここではプログラムにおける楽器演奏や歌唱の導入の在り方についても実践例に基づいて学習する。（担当：西野）</p>	<p>（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）</p>	<p>（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。（20分）</p>
9	<p>「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、特に幼児期の子どもたちを対象とした実践の方法を学ぶ。ここでは、絵本「そらめくんのベッド」（なかやみわ著）に即興音楽を導入した実践例を通して、幼児期の子どもたちの特性・発達に合わせたプログラムの構成について学習する。（担当：西野）</p>	<p>（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）</p>	<p>（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。（20分）</p>
10	<p>「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、特に学童期の子どもたちを対象とした実践の方法を学ぶ。ここでは、絵本「雪渡り」（宮沢賢治著）にバッハのフランス組曲BWV816を導入した実践例を通して、学童期の子どもたちの特性・発達に合わせたプログラムの構成について学習する。（担当：西野）</p>	<p>（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）</p>	<p>（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。（20分）</p>
11	<p>「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、実施を想定したロールプレイ学習を行う。ここでは、指導者役と子ども役に分かれ、実際の場面を想定しながらロールプレイ体験を行うことにより、指導の実際を学習する。（担当：西野）</p>	<p>（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）</p>	<p>（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。（20分）</p>
12	<p>「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、ロールプレイ学習の組織的ふりかえりを行う。ここでは、クリッカー（反応収集提示装置）を用いて、ロールプレイ体験場面を収録した映像を分析する。指導者役と子ども役のかかわり場面について、特に指導者の動きに関する分析を行うことを通して、指導者の動きの適切性や子どもに対する応答的なかかわり方について理解を深める。（担当：西野・山本）</p>	<p>（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）</p>	<p>（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。（20分）</p>
13	<p>「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、実際のプログラムの立案を行う。ここでは、子どもの年齢や特性、発達に合わせて、題材とする絵本の選定、既存の楽曲の使用、即興音楽の導入、楽器の使用、空間構成等の具体的な計画を立て、指導計画書を作成する。（担当：西野）</p>	<p>（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）</p>	<p>（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。（20分）</p>
14	<p>「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、実際の子どもたちを前に計画したプログラムを実践する。また、事後には指導場面について、子どもの発達特性に合った内容としての適切性、音楽の導入の適切性、空間構成の3つの観点から、全員でふりかえりを行い、実践報告書を作成する。（担当：西野）</p>	<p>（準備学習）指定文献について、読み込みをしておく。（25分）</p>	<p>（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。（20分）</p>

15	授業全体のふりかえりを行う。発達支援のフィールドとしての子育て教育地域支援センター（文教ペンギンルーム）における「場を通した支援の在り方」について、これまでの授業をふりかえり、子育て教育地域支援センターのセンター員（ゲストスピーカー）の講評を得ながら、意見交換を行う。また、ここでの学びの成果について、最終レポートを作成する。（担当：山本・西野）	（準備学習）授業全体をふりかえり、学習した内容を整理しておく。（25分）	（事後学習）演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。（20分）
----	---	--------------------------------------	--

成績評価の方法		
区分	割合（%）	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	文教ペンギンルームでの指導実践及びケースレポートの作成
その他	0	なし

教科書	テキストは使用しない。必要な資料は都度配布する。
参考文献	渡部信一監修（2011）高度情報化時代の学びと教育．東北大学出版会 クリストファー・スモール（野澤豊一・西島千尋訳）（2011）ミュージッキング-音楽は行為である-．水声社
履修条件・留意事項等	各自の研究を構築していくための機会として位置づけて授業に臨んでください。また、発達支援に関わるロールプレイ、臨床体験、討論等への積極的な参加が求められるので留意してください。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210190C1 こども発達学実践演習II		6582	2	2	前期
教員氏名	小田 進一				
授業の位置づけ	実践研究のための研究資料の作成や院生相互の「行動観察」の力量形成にとって大きな意味を持つと考えられる。この実践演習の担当者には実践研究に精通した教員を配置する。また、この実践演習と並行させながら、院生各自が関心を持つ実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が教育課程に組み込まれている。この実践演習には実践研究に精通した指導教員を配置する。実践研究のためのフィールドとして、本学の「子育て教育地域支援センター（通称文教ペンギンルーム）」、附属幼稚園及び院生の受け入れが可能な小学校等が予定されている。				
授業の概要	附属幼稚園及び協力幼稚園をベースにして進められる。本演習の目的は、幼稚園教育における教育成果を高める教育・保育の要件とその評価法を開発できる力量を形成することにある。ここでは、特に、実践的臨床的観点から、教育・保育場面を考察していく力を身につけることを目標とする。そのための資料として、保育場面で収集された子ども同士や保育者と子どもとのやり取りのエピソードや保育者の教育・保育実践に関する「語り」の資料を通して、ありありと対象の子どもの実像が浮かび上がるような評価資料の収集の仕方を研究していく。さらに、模擬保育を計画し、これまでに学習してきた知識を経験に裏付けられた知識として深めていく。				
到達目標	1. 保育の見取り、記録や保育者との連携を基にした保育計画の立案 2. 模擬保育の計画実践 3. 実践知の一般化				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をとおした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開する。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	本学付属幼稚園園長としての実務経験をふまえ、保育・幼児教育の実践的思考を伝えていく。				
課題に対するフィードバックの方法	授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション 授業目標の保育構想力を高めるために、授業での取り組みの説明、評価、留意事項等の説明。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
2	子どもの意欲を喚起し教育効果を高める保育方法の検討の意義 保育方法の確認と保育方法に伴う環境や保育者の在り方について	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
3	幼稚園における参与観察のための準備① 参与観察の課題の検討と明確化のためのグループ討議と作業。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
4	幼稚園における参与観察のための準備② グループによる参与計画の立案と個別の課題設定。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
5	幼稚園における参与観察のための準備③ 幼稚園教育要領における教育課程・指導計画、保育実践と評価、エピソード記録などの資料収集方法などの幼稚園における保育方法を観察する際の課題を整理する	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
6	幼稚園における参与観察1日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中で子ども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。課題を基にした、記録。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
7	幼稚園における参与観察2日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中で子ども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。課題を基にした、記録。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
8	幼稚園における参与観察3日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中で子ども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。課題を基にした、記録。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		

9	幼稚園における参与観察4日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中でこども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。課題を基にした、記録。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
10	幼稚園における参与観察5日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中でこども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。課題を基にした、記録。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
11	幼稚園における参与観察6日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中でこども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。記録による状況を踏まえた計画の立案。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
12	体験の振り返り 各自の体験の報告と検討。各自体験を基にした資料を作成し、発表・討議。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
13	模擬保育① 体験を踏まえての「教育・保育」指導計画の作成と検討。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
14	模擬保育② 模擬保育の実践と評価	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
15	今後の学習計画の立案 保育を構想するための自己課題の整理と今後の学習計画を作成する。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	資料等の作成 (20%)。それに基づく指導計画の作成 (50%)。体験報告自己課題 (30%) による。
その他	0	なし

教科書	なし
参考文献	なし
履修条件・留意事項等	各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。
備考欄	



科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210200C1 こども発達学実践演習III		6584	2	2	前期
教員氏名	加藤 裕明				
授業の位置づけ	①本演習は、実践研究のための研究資料の作成やその分析・総合といった具体的な研究方法、研究作法を身につける具体的なスキル向上のための演習科目である。 ②こども発達学基礎科目、こども発達支援教育関連科目、こども発達支援教育関連演習科目等に接続し、高度な実践力を持って実践的研究力を身につける科目として位置づけられる。				
授業の概要	①本演習では、地域の幼児教育活動、発達支援活動、保護者支援活動、学校教育活動等のフィールドに関する知識を身につける。 ②そして、地域の教育実践活動のフィールドにおいて、参与観察の技能を身につける。 ③さらに、フィールドワークとして地域における教育実践活動に参画し、観察記録を作成できる。				
到達目標	①地域の教育実践活動のフィールドに関する基礎知識を理解し、説明できる。 ②地域の教育実践活動を参与観察するための方法を活用できる。 ③地域の教育実践活動に従事する実践者と協力し、活動に参加し、観察記録を作成できる。				
授業の方法	①パワーポイントと配布印刷物を用いて解説する。 ②少人数のゼミ形式であり、文献購読、フィールドワーク等に関し、対話・討論を軸にすすめる。 ③フィールドワーク及び参与観察を実践し、受講生の対話・討論を軸にすえて授業を展開する。				
ICT活用	・Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、反転学習や遠隔授業をも効果的に取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	・公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践経験を有する。また、この間、部活動指導にも従事し、演劇教育を専門的に研究し、博士学位を取得した。以上の経験を活かし、子どもたちの信頼関係づくり、協働的、活動的な学びと表現創造等に関し、具体的にアドバイスを行う。				
課題に対するフィードバックの方法	・G-classroom等も活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	今日の教育課題と求められる教師像：その1 今日の教育課題について考える。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
2	今日の教育課題と求められる教師像：その2 求められる教師像について、教師の資質の面から考える。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
3	地域において教育活動を展開しているNPO職員の講話（「これからの地域に求められる教育力」）について対話・討論する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
4	講話（「これからの地域に求められる教育力」について）を素材にして対話・討論し、レスポンスシートを作成する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
5	地域の教育支援センターなどの実践をフィールドワークし、観察記録を作成する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
6	地域の教育支援センターにおける子どもの活動に関する観察記録を素材にして対話・討論を進め、活動についてリフレクションを行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
7	恵庭地域の児童の放課後の活動を観察し、観察記録をつける。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
8	恵庭地域の児童の放課後の活動に関する観察記録を題材に、小学校と保護者との連携・協力について対話・討論を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)		
9	恵庭の児童青少年演劇活動「絆花」の活動をフィールドワークし、観察記録をつける。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)		

10	「絆花」の観察記録を題材に、対話・討論を行い、こども理解、社会情動的スキルに関する考察を深める。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
11	これまでの授業（フィールドワークも含む）の振り返りをする。必要に応じて、活動場面のビデオ資料を活用し、対話・討議を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
12	今後の研究に向け、教育実践のフィールドを絞る。各自、自分の研究テーマやフィールドについての資料を持ち寄り、共同の討議を通して情報の共有化を図る。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
13	今後の研究に向けた研究計画に沿って、資料の収集及び活用を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
14	今後の研究に向けた計画をふまえ、実践記録や動画記録などを活用し対話・討議を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
15	授業全体について振り返りをし、受講者全員で対話し、今後の研究に向けた課題について対話や討議を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業全体を振り返り、自分の研究テーマとの関連性を考える。(25分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	・フィールドワークやインターンシップ等の調査、体験とそのレポート (50%) ・授業に関する各自の資料を活用した対話。討論への取り組み (50%)
その他	0	なし

教科書	・授業の中で、必要なテキストや資料を適宜、印刷配布する。
参考文献	・佐藤郁哉 (2002) 『フィールドワークの技法』新曜社 ・加藤裕明 (2016) 「演劇教育による協働的創造性育成過程の質的研究—演劇部活動における高校生の変化」北海道大学学術成果コレクションUSCUP ( <a href="https://eprints.lib.hokudai.ac.jp">https://eprints.lib.hokudai.ac.jp</a> )
履修条件・留意事項等	・各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210210C1 こども発達学特別研究I		5700	2	1	後期
教員氏名	小田 進一、白幡 知尋、山口 宗兼、山本 愛子、高橋 道也、加藤 裕明、木谷 岐子、小椋 佐奈衣				
授業の位置づけ	本研究科の特徴は、複数の教授による共同講義「こども発達支援総論」の設定、高度な学問的成果と実践を往還しながら創意ある実践を展開するための「発達支援分析評価法実践演習」、実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び修士論文の作成のための「こども発達学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が、一貫した流れとして教育課程に組み込まれているところにある。				
授業の概要	こども発達学実践演習での取組で得た経験に裏付けられた知識を、さらに深める学習の流れのなかで、こども発達学特別研究Ⅰが位置づけられる。ここでは、各自が「こども発達学実践演習」の実践的学習のなかで生まれてきた「こども発達学に関するテーマ」の明確化に学習活動の中心がおかれる。具体的には、研究課題に関連する検討を、指導教員のもとで行う。さらに、指導教員のもとで、各自の課題意識に応じて研究課題を確定し、先行研究論文及び関連研究論文を収集し、研究テーマの明細度をあげる。				
到達目標	各自が関心を持つ研究テーマを設定し、研究計画書を作成できる。				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、これまでの授業と併せて、実践演習のためのフィールドでの経験をさらに発展させ、修士論文として発展させる手がかりを得るために、全員で話し合い、情報を共有する形で学習し、各自の研究課題を深めていく機会を提供する。				
ICT活用	パソコンやタブレット等を用いて、発表や討論の資料を作成する。				
実務経験のある教員の教育内容	7名の教員全員に、研究者としての実務経験がある。その経験を活かし、学生が設定した課題への取り組みを支援する。				
課題に対するフィードバックの方法	修士論文作成における討論のなかでの指導グループからのコメント、及び検討案についての指導教員からのコメントによってフィードバックを図っていく。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	院生各自のこれまでの研究成果の共有① 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	(準備学習)各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	(事後学習)お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)		
2	院生各自のこれまでの研究成果の共有② 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	(準備学習)各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	(事後学習)お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)		
3	院生各自のこれまでの研究成果の共有③ 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	(準備学習)各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	(事後学習)お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)		
4	院生各自のこれまでの研究成果の共有④ 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	(準備学習)各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	(事後学習)お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)		
5	指導教員の研究に学ぶ① 第1教員グループ担当(木谷岐子・白幡知尋・山口宗兼) 指導教員の研究に関する情報を聞き、自分の研究したこと、これから研究していきたいこととの関連性について探る。	(準備学習)事前に配布された指導教員の研究資料に目を通しておく。(20分)	(事後学習)授業を通して得られた教育情報を授業の振り返りシートに記入し、保存しておく。(25分)		
6	指導教員の研究に学ぶ② 第2教員グループ担当(川端愛子・高橋道也) 指導教員の研究に関する情報を聞き、自分の研究したこと、これから研究していきたいこととの関連性について探る。	(準備学習)事前に配布された指導教員の研究資料に目を通しておく。(20分)	(事後学習)授業を通して得られた教育情報を授業の振り返りシートに記入し、保存しておく。(25分)		
7	指導教員の研究に学ぶ③ 第3教員グループ担当(加藤裕明・小田進一) 指導教員の研究に関する情報を聞き、自分の研究したこと、これから研究していきたいこととの関連性について探る。	(準備学習)事前に配布された指導教員の研究資料に目を通しておく。(20分)	(事後学習)授業を通して得られた教育情報を授業の振り返りシートに記入し、保存しておく。(25分)		

8	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究① (先行研究)の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、研究の目的(問題の所在)等を検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	(準備学習)各自が関心を持つ先行研究論文の選定及び論文紹介のための準備をする。(20分)	(事後学習)授業を通して、各自が関心を持つ研究論文の課題を整理する。(25分)
9	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究② (先行研究)の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、研究の方法等を検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	(準備学習)各自が関心を持つ研究論文の選定及び論文紹介のための準備をする。(20分)	(事後学習)授業を通して、各自が関心を持つ研究の方法等について整理する。(25分)
10	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究③ (先行研究)の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、研究結果及び考察の仕方について検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	(準備学習)各自が関心を持つ研究論文の選定及び論文紹介のための準備をする。(20分)	(事後学習)授業を通して、各自が関心を持つ研究論文の課題を整理する。(25分)
11	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究④ (先行研究)の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、研究結果及び考察の仕方について検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	(準備学習)各自が関心を持つ研究論文の選定及び論文紹介のための準備をする。(20分)	(事後学習)授業を通して、各自が関心を持つ研究論文の課題を整理する。(25分)
12	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究⑤ (先行研究)の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、引用文献・参考文献の引用の仕方について検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	(準備学習)各自が関心を持つ研究論文の選定及び論文紹介のための準備をする。(20分)	(事後学習)授業を通して、各自が関心を持つ研究論文の課題を整理する。(25分)
13	第1回目の修士論文の発表: 第1週から第12週までの学習を参考にしながら、各自の研究計画書(案)を立案する。	研究テーマ(仮題)、研究の方法、研究結果のまとめ方、関連文献、等を記載した研究計画書(案)を作成し、発表する。(20分)	(事後学習)新しく得た情報を整理する。(25分)
14	第2回目の修士論文の発表: 各自の研究計画書に基づいた発表に関して、指導教員チームからのアドバイスを組み入れて検討した研究計画書(案)を作成し、再度、発表する準備をする。	(準備学習)第1回目の修士論文の発表に関する指摘を検討し、第2回目に向けて修正をしたパワーポイントを作成する。(20分)	(事後学習)新しく得た情報を整理する。(25分)
15	各自の研究計画書に基づいた発表に対する指導教員チームからのアドバイスを組み入れて検討した最終的な研究計画書を作成し、修士論文の作成に着手する。	(準備学習)第1回及び第2回の発表に関する助言をベースに指導教員と研究課題の絞込みの作業に入る。(20分)	(事後学習)新しく得た情報を整理する。(25分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	研究計画書の作成を中心に評価する。
その他	0	なし

教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
履修条件・留意事項等	この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210220C1 こども発達学特別研究II		6710	2	2	前期
教員氏名	小田 進一、白幡 知尋、山口 宗兼、山本 愛子、高橋 道也、加藤 裕明、木谷 岐子、小椋 佐奈衣				
授業の位置づけ	実践研究のための研究資料の作成や院生相互の「行動観察」の力量形成にとって大きな意味を持つと考えられる。この実践演習の担当者には実践研究に精通した教員を配置する。また、この実践演習と並行させながら、院生各自が関心を持つ実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が教育課程に組み込まれている。この実践演習には実践研究に精通した指導教員を配置する。実践研究のためのフィールドとして、本学の「子育て教育地域支援センター（通称文教ペンギンルーム）」、附属幼稚園及び院生の受け入れが可能な小学校等が予定されている。				
授業の概要	附属幼稚園及び協力幼稚園をベースにして進められる。本演習の目的は、幼稚園教育における教育成果を高める教育・保育の要件とその評価法を開発できる力量を形成することにある。ここでは、特に、実践的臨牀的観点から、教育・保育場面を考察していく力を身につけることを目標とする。そのための資料として、保育場面で収集された子ども同士や保育者と子どもとのやり取りのエピソードや保育者の教育・保育実践に関する「語り」の資料を通して、ありありと対象の子どもの実像が浮かび上がるような評価資料の収集の仕方を研究していく。さらに、模擬保育を計画し、これまでに学習してきた知識を経験に裏付けられた知識として深めていく。				
到達目標	1. 保育の見取り、記録や保育者との連携を基にした保育計画の立案 2. 模擬保育の計画実践 3. 実践知の一般化				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をとおした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開する。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	本学付属幼稚園園長としての実務経験をふまえ、保育・幼児教育の実践的思考を伝えていく。				
課題に対するフィードバックの方法	授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション 授業目標の保育構想力を高めるために、授業での取り組みの説明、評価、留意事項等の説明。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
2	子どもの意欲を喚起し教育効果を高める保育方法の検討の意義 保育方法の確認と保育方法に伴う環境や保育者の在り方について	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
3	幼稚園における参与観察のための準備① 参与観察の課題の検討と明確化のためのグループ討議と作業。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
4	幼稚園における参与観察のための準備② グループによる参与計画の立案と個別の課題設定。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
5	幼稚園における参与観察のための準備③ 幼稚園教育要領における教育課程・指導計画、保育実践と評価、エピソード記録などの資料収集方法などの幼稚園における保育方法を観察する際の課題を整理する	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
6	幼稚園における参与観察1日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中で子ども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。課題を基にした、記録。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
7	幼稚園における参与観察2日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中で子ども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。課題を基にした、記録。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		
8	幼稚園における参与観察3日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中で子ども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。課題を基にした、記録。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。		



9	幼稚園における参与観察4日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中でこども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。課題を基にした、記録。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
10	幼稚園における参与観察5日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中でこども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。課題を基にした、記録。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
11	幼稚園における参与観察6日目 保育の見取りと保育の見通しについて意識し、1週間の経過の中でこども理解のあり方と保育構想の実際について体験的に学ぶ。記録による状況を踏まえた計画の立案。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
12	体験の振り返り 各自の体験の報告と検討。各自体験を基にした資料を作成し、発表・討議。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
13	模擬保育① 体験を踏まえての「教育・保育」指導計画の作成と検討。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
14	模擬保育② 模擬保育の実践と評価	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。
15	今後の学習計画の立案 保育を構想するための自己課題の整理と今後の学習計画を作成する。	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	資料等の作成 (20%)。それに基づく指導計画の作成 (50%)。体験報告自己課題 (30%) による。
その他	0	なし

教科書	なし
参考文献	なし
履修条件・留意事項等	各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
210230C1 こども発達学特別研究III		6720	2	2	後期
教員氏名	小田 進一、白幡 知尋、山口 宗兼、山本 愛子、高橋 道也、加藤 裕明、木谷 岐子、小椋 佐奈衣、三上 勝夫				
授業の位置づけ	本研究科の特徴は、複数の教授による共同講義「こども発達支援総論」の設定、高度な学問的成果と実践を往還しながら創意ある実践を展開するための「発達支援分析評価法実践演習」、実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び修士論文の作成のための「こども発達学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が、一貫した流れとして教育課程に組み込まれているところにある。				
授業の概要	中間報告を通して明らかになった課題の修正を行い、修士論文の到達点を明確にする。さらに、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させて、修士論文の完成を目指す。				
到達目標	執筆した、修士論文の原稿を大学の研究紀要に投稿することを到達目標とする。				
授業の方法	実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、これまでの授業と併せて、実践演習のためのフィールドでの経験をさらに発展させ、修士論文として発展させる手がかりを得るために、全員で話し合い、情報を共有する形で学習し、各自の研究課題を深めていく機会を提供する。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	担当者には、幼稚園、子育て教育地域支援センター、カウンセラー、特別支援学校教諭、高等学校教諭など保育・教育の現場における実務経験が豊富にあり、そこで培われた実践的な知見を大学院生の修士論文に活かすよう指導を展開する。				
課題に対するフィードバックの方法	修士論文作成における討論のなかでの指導グループからのコメント、及び検討案についての指導教員からのコメントによってフィードバックを図っていく。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	各自、中間報告に向けて、自己設定した「研究計画」に基づいた課題設定の進行状況の報告の準備をする。	修士論文の作成に向けて、必要な資料を収集し、読み込みをする。(20分)	中間報告の準備をする。(25分)		
2	研究計画の発表と評価：その1 研究計画を発表し、評価を受ける。評価に基づいて計画の修正を行う。	研究計画を発表の準備をする。(20分)	中間報告についての評価を受け、評価に基づいて計画の修正に着手する。(25分)		
3	研究計画の発表と評価：その2 研究計画を発表し、評価を受ける。評価に基づいて計画の修正を行う。	研究計画を発表の準備をする。(20分)	中間報告についての評価を受け、評価に基づいて計画の修正に着手する。(25分)		
4	研究計画の発表と評価：その3 研究計画を発表し、評価を受ける。評価に基づいて計画の修正を行う。	研究計画を発表の準備をする。(20分)	中間報告についての評価を受け、評価に基づいて計画の修正に着手する。(25分)		
5	研究計画の発表と評価：その4 研究計画を発表し、評価を受ける。評価に基づいて計画の修正を行う。	研究計画を発表の準備をする。(20分)	中間報告についての評価を受け、評価に基づいて計画の修正に着手する。(25分)		
6	研究の前段的遂行：その1 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査を経て、本実験、本調査などを開始する。	文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定を検討する。(20分)	研究をさらに発展させ、研究のまどめに着手する。(25分)		
7	研究の前段的遂行：その2 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査を経て、本実験、本調査などを開始する。	文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定を検討する。(20分)	研究をさらに発展させ、研究のまどめに着手する。(25分)		
8	研究の前段的遂行：その3 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査を経て、本実験、本調査などを開始する。	文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定を検討する。(20分)	研究をさらに発展させ、研究のまどめに着手する。(25分)		
9	研究の前段的遂行：その4 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査を経て、本実験、本調査などを開始する。	文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定を検討する。(20分)	研究をさらに発展させ、研究のまどめに着手する。(25分)		

10	本研究の後段階的遂行：その1 研究指導チームによる指導のもとに、本研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。	文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定を検討する。 (20分)	研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。
11	本研究の後段階的遂行：その2 研究指導チームによる指導のもとに、本研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。	文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定を検討する。 (20分)	研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。 (25分)
12	本研究の後段階的遂行：その3 研究指導チームによる指導のもとに、本研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。	文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定を検討する。 (20分)	研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。 (25分)
13	本研究の後段階的遂行：その4 研究指導チームによる指導のもとに、本研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。	文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定を検討する。 (20分)	研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。 (25分)
14	中間報告に向けた発表資料の準備：その1 指導教員からのアドバイスを受けながら、パワーポイントの作成、発表要旨の作成を進める。	これまでの検討をベースに、研究発表の準備をする。 (20分)	研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。 (25分)
15	中間報告に向けた発表資料の準備：その2 指導教員からのアドバイスを受けながら、パワーポイントの作成、発表要旨の作成を進める。	これまでの検討をベースに、研究発表の準備をする。 (20分)	研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。 (25分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	中間報告会・追加実験・調査及び研究成果の発表により、総合的に評価する。
その他	0	なし

教科書	特に指定しない。
参考文献	大学院生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。
履修条件・留意事項等	この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。
備考欄	